（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可）（毎月一回一日發行）
（大正六年七月廿日納本）

男女貞潔之理想　會長　島田三郎
公娼廢止之主張　副會長　安部磯雄

4—245

廓清

第七卷　第七號

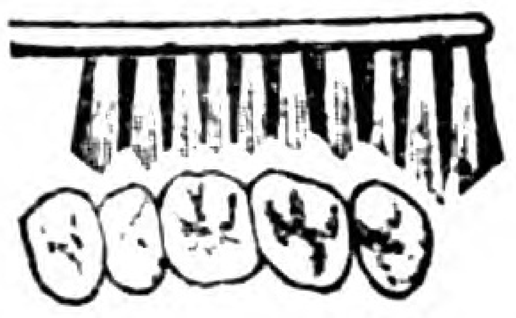
□廓清時言……伊藤江南
□五年度事業報告……前衆議院議長　島田三郎
□家庭の官僚主義……早大教授　安部磯雄
□貞操と女子教育……法學博士　浮田和民
□女性の男性化……新佛教幹事　高島米峰
□飮酒と犯罪……醫學博士　片山國嘉
□仁人何處にありや……三輪田女學校長　三輪田元道
□淨瑠璃の男女道德……一條忠衛
□誤れる貞操觀念……福井壽郎
□遊廓物語(七)……救世軍婦人救濟係　伊藤大尉
□お伽噺しの眞髓……隆之助
□廓清會總會記……角雅堂
□天皷の響き……愛泉生
□廓清春秋……元大連商業學校長　河合北洲

東京　廓清會本部　發行

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

完全消毒

『萬歳』歯刷子



「萬歳」歯刷子の特長

一毛束の大さや長さが、一つ一つ違へて、あつて、其先が尖らしてありますから、大小の歯の間や咀嚼面の凸凹部をうまく磨ける様になつてゐます。

一毛束の列べ方を歯列に合ふ様にしましたから、普通の楊枝の届かない奥歯の奥まで具合よく磨けるやうになつてゐます。

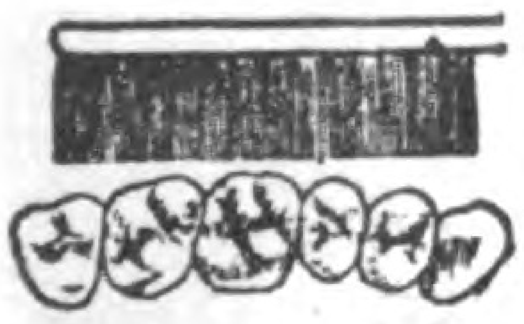
一男子用、婦人用、子供用と分けて、それに硬軟大小とありますから、銘銘自分に適するものを撰んで使へる様になつてゐます。

一毛束の間に隙が拵へてありますから、洗ふにも乾かすにも便利でございます。（側乾かす時には柄の端にある孔を釘にでも掛けると宜しい。）

一柄を外に曲げて持ち易く使い易くしてあります。

一大さを日本人向に致しましたから、舶来品にある様な不便はありません。

一消毒の上、厳重に封じてありますから病菌傳播の憂もなく誠に氣持が宜しうございます



普通の歯楊枝の缺點

▽定價

男子用　二十五錢
婦人用　二十錢
子供用　十五錢

ライオン歯磨
ライオン石鹸　本舗　東京本所區外手町　小林富次郎

●御注文の際は必ず雜誌『廓清』によるを旨を申添を乞ふ●

産婦人科。小兒科

鷲山改め

女醫 吉岡彌生

△院長診察 宅診午前 往診午後

△醫員診察 午後

産室及病室の設けあり臨時入院の需めに應ず

東京市麴町區飯田町四丁目三十一番地

東京至誠病院

電話番町二二五七番

山室軍平氏著

社會廓清論

特價七十錢 郵稅八錢

グレゴリー氏著（邦譯）

歐洲諸國 醜業公認制度廢止運動

特價 稅共 十錢

伊藤秀吉氏著

娼妓自由廢業案内

特價 稅共 十二錢

酒きらいになる藥

禁酒丸

一週分 一圓

二週分 一圓九十錢

三週分 二圓八十錢

どんな酒煙草のみでも害なく心からきらいになる。郵券二錢送れば説明書及大澤博士其他名士の禁酒論 禁煙論 進呈

禁煙液

煙草きらいになる藥

金五十錢 金壹圓 金一圓五十錢

本舗 大阪靱南通二丁目

森田商店

電話土佐堀二六〇二番

振替大阪二二壹二六番

廓清

THE PURITY

大正六年七月

第七卷第七號

廓清時言

風紀問題に無理解なる當局

私娼撲滅を策して他面に公娼の奬勵を圖るが如き矛盾を敢てする警視廳ながら、頃日また又奇怪なる風紀取締を行ひたり、事はドラッグ商會なる花柳病治療藥品を販賣する商賈の店頭に、花柳病發生の症狀を模型とせる數個の陳列を禁止したる事件にして、吾人の論ふに足らざる小事に似たれども、實は當局の風紀問題に對する無理解を實證する、社會風敎上の不祥事なるが故に、一擊を與へて當局の反省を乞はんとす。

同商會に陳列せられたる模型は、余も實見したるが決して風俗を壞亂するが如きものに非ざりき、主として顏面に顯はれたる症狀數種を模型に作り、一々之に註解を加へ『藝妓娼妓其他の賣笑婦に接すれば皆此通りになる』『不品行の報ひは眼前此の天刑を蒙るが故に賣淫婦に近く勿れ』といふ意味が各々に記されありて、之を一見したらん者は何人も花柳病の慘毒に戰慄し、品行の正しからざる可からざるを悟るが故に、宛として本會主張の一部を體現したる、廓清會の主張所たる觀ありて、內務省が近來銳意國民の保健に努力し警視廳亦此點より私娼撲滅を敢行したるより觀れば此の店飾の如きは正に保護奬勵すべきものなりき然るに當局が一片の投書に動かされて之が撤廢を命じたるが如きは咄々怪事にして、若し當局之を以て羞恥の感情を催さしむるが故に不可となさば、公娼制度の如きは 抑如何。藝妓の橫行の如きは如何。吉原細見の書肆の店頭に陳列發賣せらるゝは如何。更に而して男女間の不潔なる情交を聯想せざるを得ざるゴム製の或物が勸工場の化粧品店頭に麗々しく飾らるゝは抑々如何ぞや。

然れども吾人は此陳列を以て毫も羞恥の感情を誘起する事なしとは云は

ず、吾人は元より純潔を熱愛し、梅毒と云ひ痳病と云ひ子宮病と云ひ、賣淫と云ひ、存娼と云ひ廢娼といふが如き文字に接する事も亦不快にして、公に用ひられざらん事を望むと雖も如斯は泥中にありて清流を懷ひ、泥を脱するを知らざるの見也。既に花柳病の存在を忌む以上、之が撲滅を圖る陳列を禁ずるが如きは、明に賣笑婦に左袒して廢娼論を壓迫する者といふ可く、防禦を禁じて盜賊を公行せしむる者に非ずや

日本人の服裝と男女道德

西洋婦人の服裝には希臘主義と伯來主義の衝突あり、上半身を露出して肉體美を見するは希臘思想なり、下半身を嚴密に包むは即ち伯來思想也、然るに顧みて男女道德の方面より我が日本人の服裝を觀察するに、頸部胸部を寛げるは希臘的なる上、下半身を露出して時に仙人の通力を失はしむ。袴を穿ちたる婦人よりも帶を締めたる婦人の衝動的に犯され易きは不良少年を研究する者の首肯する處ならん、日本服の改良は蓋し男女道德振作の上より觀て又急務たらずんば非ず。

日本人の服裝が日本の風土に適して發達したるものなるはいふ迄もなけれど、肉體露出の多少は以て一國の文野を測す可し、野蠻人の羞恥心が下腹部に葉片を垂らす位にて足るに對し、文明人は足部の一少部分を隱見しても尚之を感ず、然るに日本人は電車中にありてすら太股を出す可らず杯いふ掲示を必要とし、甚だしきは婦人の浴場に三助と稱する者を出入接觸せしめて平然たり、男女道德の嚴肅ならざる宜なる哉

私娼の復活と公娼の現狀

警視廳が昨夏以來熱心廢滅に努めたりし私娼が、近來藝妓の名目の下に再び市內各區に復活し來りたるは遺憾也、當局は辨じて曰く『藝妓營業なるものを認めある以上、此の新規願出に對して許可すべからざる理由ある事なし、若し彼等に賣淫の疑ひあらんか、豈大正藝妓たると然らざるとを問はんや、前保安部長が新橋赤坂方面に手を下さゞりしは寧ろ遺憾とする處にして、余は最も峻嚴に之が檢擧を斷行す』と。

其言や可矣、然れども此事ありて既に二旬いまだ、新橋赤坂に手入をしたるを聞かず、若し彼等に賣淫の嫌疑なしと云はゞ、即ち迂の骨頂也、泥棒を捕へて見れば上官なり先輩なりといふにあらば、即ち陋の極致也、遂に折角自ら手を下して熱心に撲滅したる大正藝妓を一年ならずして又許可復活せしむるは拙の行止まり也。

尚市內二大廓の現狀を調査し得たれば左に掲ぐ。(江南)

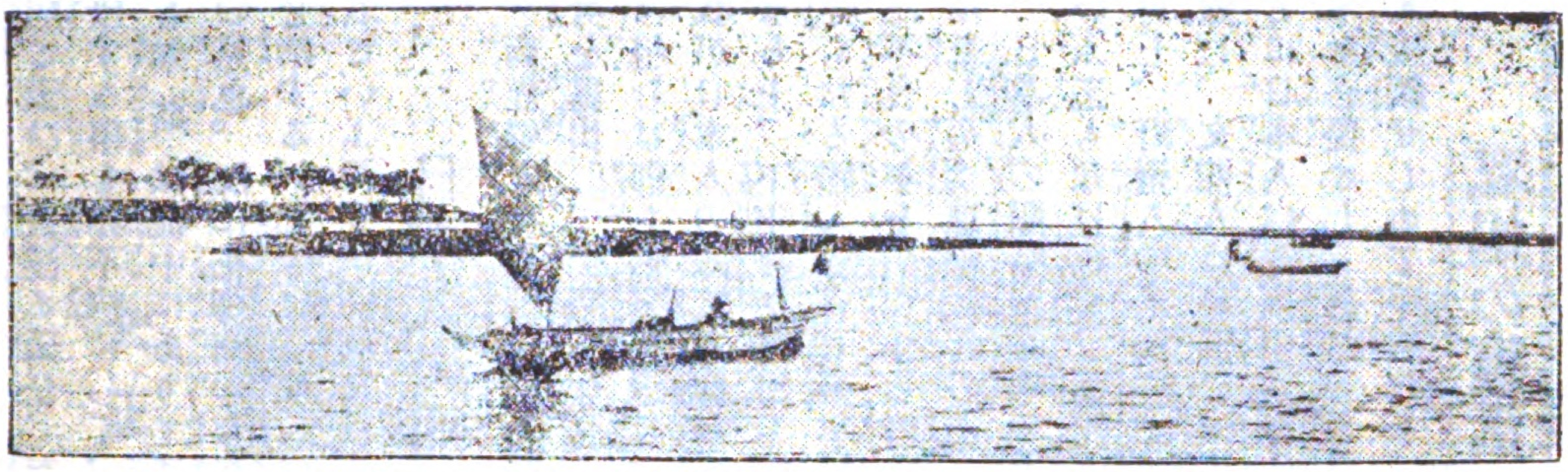
吉原之部

	遊客數	散財高	貸座敷數	娼妓數
大正五年三月	九八、四六九人	二八、四[illegible]、一二〇錢		
同　四月	一一三、一七五人	三九、五四四、七〇〇錢		
同　五月	一〇五、三六一人	三三、〇三八、九八〇錢	一七一戸	二、三二七人
六年三月	一三三、九九八人	三〇、八四六、六一五錢		
六年四月	一五二、九六八人	四三、八七七、〇二〇錢		
六年五月	一二八、〇〇二人	二九、七五三、三二五錢	一九三戸	二、五一八人

洲崎之部

	遊客數	散財高	貸座敷數	娼妓數
同　三月	八六、四一四人	一三五、六〇三、五三五錢		
同　四月	九一、六五〇人	一三三、〇二八、三四〇錢		
同　五月	九〇、五〇四人	一三六、一四一、五一五錢	一五五戸	一、九一七人
六年三月	九五、四六四人	一六〇、三九七、八三〇錢		
同　四月	一〇〇、二六七人	一六六、四三〇、八八〇錢		
同　五月	九九、三七六人	一七、四八〇、一五〇錢	一八七戸	一、八〇六人

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY



大正五年度事業報告

廓清會長　島田三郎

大正五年度に於ける事業の主なるものは、大阪に於ける飛田遊廓設置反對運動と、警視廳の公娼擴張に對する反對運動とである。其の會員數と經費とに比較して、事業の甚だ振ひたるは、一に會員諸君の熱心なる御後援の賜に外ならず。茲に不肖等役員の深謝する處でありますが、未だ諸君の御希望に副ふ丈の効果を收め得なかつた點は不肖等の怠慢を謹謝致します。今之を月別して報告すれば。

四月　十五日　大阪府廳は數年前吾人が奮鬪の結果廢止したる難波新地遊廓の代地なりとして飛田の地に新に二萬坪を遊廓地として指定した。茲に於て本會大阪支部は直に活動を初め、林歌子氏は二十日本部と打合の爲め上京し、臨時役員會を開き、設置反對の決議文を草し、二十四日夜を以て東西一齊に反對運動の火蓋を切つた。卽ち島田、山室二氏は大阪に、內ケ崎氏は神戸に、安部、油谷、高島、根本、江原の諸氏は東京(中央會堂)にて演說會を開き、輿論を喚起し、伊藤主事反對の決議文を朗讀して滿場の贊同を求め、各新聞は爭ふて我會の反對運動を詳報した此の三ケ所にて辯士十二人、聽衆二千五百人、

二十六日　林氏矢島氏等は一木、高田の諸相を訪び、地圖を携へて指定地の不適なる所以を述べて取消を請願した。二十八日大阪外人團代表者フルトン、エルスキン二氏の本部來訪、山本理事、伊藤主事及び余と會談、二氏は更に伊藤氏と共に大隈首相、一木內相を訪ふて取消を乞ふた。

五月　一日　大阪支部委員、名出、湯殘の二氏東上、臨理理事會を開き、協議を重れ、二氏は翌二日伊藤主事と共に大隈首相を其私邸に訪ふて陳情した。五日新日本に表はれたる存娼論に對し公娼問題號を印刷し、多數之を各方面に配付す

飛田遊廓設置反對陳情者を作り數日に亘つて各方面の代表者の署名捺印を乞ひ十三日之を首相內相文相に致した。

八日、警視廳は私娼撲滅を策して公娼擴張の新規則を發表した。依つて臨時理事會を開き、伊藤主事は丸山部長の說明を齎らして、本會の之に對する態度を協議し、私娼撲滅贊成、公娼擴張には絕對反對の決議をなし、直に其運動に着手す

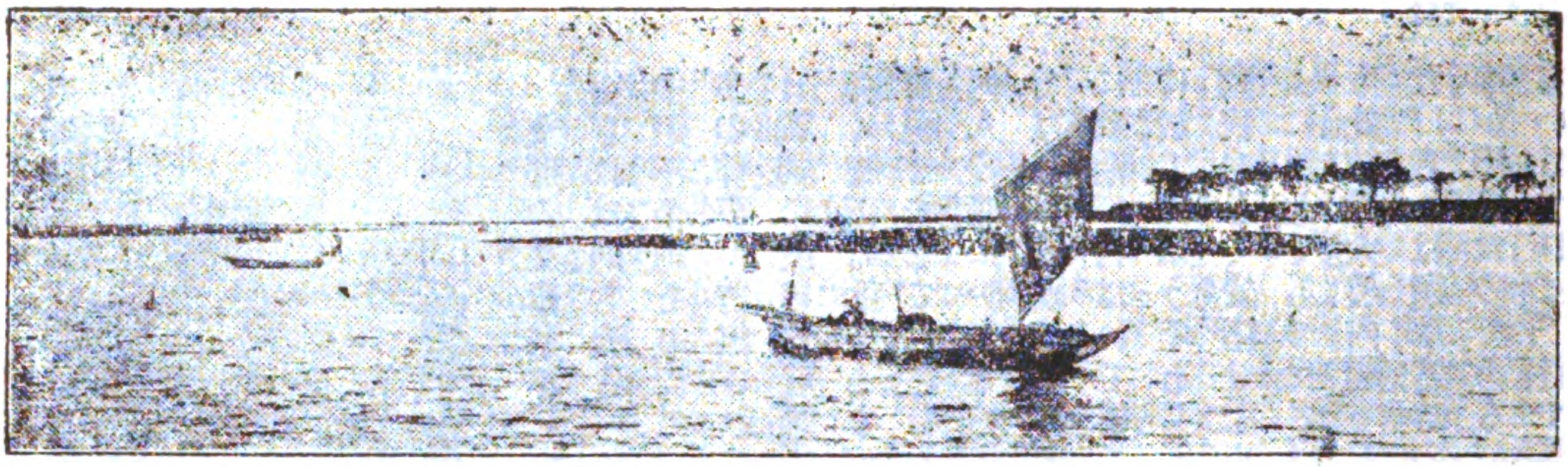
本五日「飛田遊廓設置に就て天下に檄す」「警視廳の暴策」二萬部印制出來、全國の高等官、市長、町長、學校長、警察署長、各教會等に數日に亘つて大發送す。

十六日　ポールス氏主催の社會問題研究會が飛田問題を主題として、廓清會と共に反對運動をなす事を議決し、本會を援助する事となつた。

十七日　警視廳の公娼擴張及飛田問題を併せて大演說會を神田青年會館に開く辯士、內ケ崎、安部、油谷、山室の四氏、聽衆千名、司會伊藤氏

六月　「廓清」六月號を警視廳並に大阪府廳教育號となし、多數に印刷して各方面に配付した。八日第二回(飛田問題は第三回目)反對大演說會、婦人矯風會と聯合にて本鄕座に開く。辯士、高島氏、油谷氏、グリソン氏、江原氏、向氏、山室氏、矢島氏、來會者千名司會伊藤氏、二十四日　總會開會、其夜大演說會を青年會館に開く、辯士林歌子、安部氏、德江氏、吉田博士、山室氏、島田氏、來會者千名、司會伊藤氏　十七日　京都支部演說會を開く、辯士グリーソン、林歌子、原田助、松浦博士出演、聽衆八百、

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY



七月 二十一日神田三崎町に演説會を開く辯士、伊藤富士雄、伊藤秀吉、小松武治、聽衆二百人、

八月 二十六日前橋に於て群馬支部廓清運動の打合會を開く、本部より島田、松宮二氏出張、德江支部長其付に協議す。

九月 十九日 廣島支部發會、林女史の遊説より覺醒の曙光開け、山室氏の西下を迎へて支部組織成る、支部長細川瀏氏辯士三名聽衆五百。

八九兩月、大阪支部にては同地數會を巡つて演説會を開く凡そ十回、辯士三十人、聽衆三千人。

此月女優貞奴は花魁道中を携へて亞米利加の舞臺に興行せんとするに對し、余及び山室氏は外務大臣に注意を與へて、之が渡航を禁止せしむ。

これより先、本會本阪支部にては同地婦人矯風會其他の有志と聯合して、廣く同志を集め飛田遊廓設置反對同盟會なるものを組織し同會の名義によりて演説會其他の反對運動を行ふ事となつた。

十月 飛田遊廓反對同盟會は、十日伊藤主事著「飛田遊廓反對意見」梅版百五十頁のものを三千部印刷、貴衆兩院議員、各當局者其他各方面の有力者に配付した二十日本會は松浦博士の「性慾上より見たる公娼制度」故加藤男爵の「教育家に與ふる書」の二種を八千部印刷、全國中等學校以上の學校に配付す。同日反對同盟を代表して湯淺、清水の二氏上京、首相、内相を訪問す、廿一日大阪にては矢島、林二氏を先鋒に「母の叫び日」と稱して百五十餘名の母達を集め祈禱後府廳に押寄せて千餘名より成る請願書を提出した。引續いて林女史、東上矢島氏等と内相香相へ同文の願書を進運した。廿九日安部副會長の西下を機として、岡山支部發會式成る。支部長に小川弘三郎氏就任、辯士三人聽衆約五百、同三十一日京都支部にて演説會開催安部氏湯淺氏等出演辯士三、聽衆五百。

十一月 一日大阪支部に演説會を開く、安部氏出演、辯士三人聽衆千人。二日神戸支部にて演説會を開く、安部氏出演辯士三人、聽衆五百。同日夜堺市に開催安部氏出演、聽衆五百、辯士二。

九日 福島縣川俣町に支部發會式を擧ぐ、江原素六氏出張せらる。委員長山野虎市氏就任辯士二、聽衆三百名。廿六日 衆議院議長官舍に理事會を開く。

十二月 三日 前橋市に群馬支部大會を開く。島田、安田、氏内伊藤主事出張辯士七、聽衆五百、六日衆議院議長官舍に評議員會を開く。

一月 六日 品川遊廓燒失につき伊藤主事は警視總監を訪問、同夜新年懇談會を神田多賀羅亭に開く、島田、安部、山室、宮田、井上、三田谷諸氏の感話ありて、伊藤主事の總監との問答によりて警視廳と會見の件を定む。八日、山室氏は警視廳に保安部長訪問、十六日總監宅に於て、岡田總監、小幡部長と、本會より島田、安部、矢島、伊藤の諸氏、矯風會より久布、向井、深の二氏相集りて會見し、品川遊廓其他風紀取締に就て意見を交換した。

二月 長野縣屋野町林正善氏の盡力により、南信支部の成立を見る。支部長に林正善氏就任、近く盛んなる發會式を擧ぐる筈。廿五日 理事會を開いた。

三月 十八日大阪支部演説會を開く、林歌子、新渡戸博士、益富理事、ツウィング氏出演、來會者千五百名。

十九日 京都支部演説會を開く、新渡戸、益富、原田氏出演聽衆八百。

以上を通計すると主なる演説會の回數二十八、辯士の延人員九十八、聽衆一萬六千百人、雜誌五萬部、トラクト二萬八千部であつて、發會以來の主なる數字を示せば、(六年三月末日迄の) 大演説會百十四回、辯士四百六十六人、聽衆五萬四千四百人、雜誌二十一萬、トラクト八萬六千である。

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

家庭に於ける官僚主義

廓清會副會長　安部磯雄

□物平を得ざれば即ち鳴る

支那の文章家として有名なる韓退之は曰く『凡そ物其平を得ざれは則ち鳴る』と。此の意味を解釋する時は、畢竟世の中が不平均であつて、公平でない場合には其處に種々なる幾多の弊害が誘起されて來るものであるといふ事だと思ふ。今日我國に於ける狀態の樣に、罪惡が起るのも夫れが爲である極く卑近な例であるが、假へば政治上に於て政府が民權を重要視せずして、之を飽く迄輕んずる等の如き事あらば、必ず何人の間にか衝突が起るのは當然であると思ふ。我々の考へでは今日の政治なる者が、立憲政治であるから定めし立憲的に政治が行はれて居るものと誰しもさう信ずる。然るに事實に於ては奈うであらう。何時の政府が立憲的政策を執つて、國民をして安堵せしめた事が今日迄にあつたであらうかといふに決してあつたとは謂ひ得ないのである。今度の政府固より此前の大隈内閣でも同じ事、總選擧に際して隨分干渉を試た。我々は選擧當時の各新聞紙の報に據つて、是を十分知る事が出來たのであるが、斯く政府が人民に對して公平を執らないとすれば、必ず其處に力の不平均が生ずるのである。不平均即ち強き者が、弱き者を壓迫する場合には、種々の害惡が之に伴て來るのは當然であつて、決して怪しむに足らないのである。

□男子の性慾は女子より强い乎

私が説かんとする男女問題は、之れと同意味であつて、此問題も力の不平均から起るやうに考へられるのである。私は男子だからとて無暗に男性を辯護し吾儘する理由を認めない。併し我國の多くの男子は、女子に對して餘りに我儘であると思ふ。今日風紀が大に紊亂して來たのも男子の我儘が其最大原因であつて、此狀態は獨り我國許りでなく、曾て歐米各國に於いても、矢張り同じであつたが、就中節操といふ事に就ての解釋と男子の行爲とは、實に男子の我儘から生じたのである。我々が若し虛心平氣で考へれば、節操は獨り女子のみが嚴守し、男子は此事に與り知らず、といふ事は斷じてない筈であると思ふ。即ち男女双方から要求す可きもので、決して女子にのみ要求するといふのは、男子には甚だ好都合であるかも知れぬが、之は眞に不都合千萬な事であつて不自然なる而して不公平なる要求であると謂はねばならぬ。然るに

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

男子は大目に見る可きで生理的に異る者であるとて多くの理屈を附けて偏頗なる事を唱へて居る者がある。卽ち醫師の多くは大概斯樣な意見を持つて居るやうであるが、これは頗る穩當ではない。彼等の曰ふ處によれば人間の生理的關係上、男子は女子よりも遙に生慾が強いのであつて、夫れが爲め男子は成る可く寬大にして遣らねばならぬ、反對に女子に對しては節操を強ゆる丈の理由がある。卽ち性慾の度が男子より甚だ弱いからと、斯う謂つて居る。併し乍ら公平なる眼を以つて評する時は、此論に種々の缺陷があるのは我々の考へでも、之を打砕く事が出來る例が幾何もある。假りに性慾は男子が女子よりも強烈であるとしても世の中には其の性慾以上遙に強き者がある。夫れは卽ち食慾である。

□食慾をも抑制する社會

食慾は人間に何よりも強い慾である。我々は食慾を一日とても充たさずに居る譯に行かない。夫れ程大切な食慾があるにも拘はらず、食物がない場合に我々は之を抑へなければならないのである。現に抑へて居る人達も社會には隨分ある。斯る強烈なる食慾を抑へなければならぬといふ事は、若し之を犯した場合には道德と法律との二つの大なる制裁を社會から受けなければならないからである。夫れが最も苦痛であるから、飽く迄之を抑へて居るのである。而してそれが男女の別なく抑制されて居るではないか。然るに性慾は男が女よりも強烈であるからといふ、曖昧な薄弱な論據の下に女子にのみ制裁を加へ樣とするのは甚だ不當である。假し彼等の議論が正當であるとしても茲に一の適例がある。夫は女の虛榮心である。

婦人が衣服を飾る慾が男子よりも強いのは決して不思議ではない。婦人が衣服を飾るといふ事は世界共通の事實である併し乍ら之を以て婦人は虛榮心が強烈だと云つて之を一笑に附し顧みない人達もあるが、假令へ此虛榮心が可にせよ不可にせよ、強烈なる此の女子の虛榮心を、今日の男子は何う觀か。若し妻が衣服を飾る可き必要な金錢を要求する場合があつたら、必ず其男子は妻に向つて抗議を申込むに違ひがない男子の性慾が女子の夫よりも自然的に強烈であるからといふ理由の下に我儘を容すなれば、何が故に女子にも亦此自然的に強烈なる虛榮心を容さぬのであらうか。三越や白木や其の他に於て婦人が、能く萬引をするといふ事を新聞紙で見るけれども其理由は、矢張り虛榮心の結果に外ならぬのである。然るに此自然的強烈なる虛榮心に對して社會は嚴格に容赦なき制裁を加へつゝあるのは何故か。

□婦人矯風より男子矯風

斯樣に種々なる點から熟く考へて見ると、常に男子が婦人に要求する節操は、洵に勝手氣儘な者で徒らに男子のみの好都合を圖つたものである事が判る。其結果今日の如うな風紀の頽癈を來たすに至つたのである。若し今日の如く婦人の位地が低級でなく、男子同權であつたなら男子も然う我儘な振舞が出來ないから男子も節操を嚴守したに違ひなかつた。然るに不平等な社會は遂に女子にのみ貞操を強ゆる事になつた

のである。

我國婦人の問に婦人矯風會なる者が成立されて居る。併し婦人矯風會も勿論結構ではあるけども、男子の矯風會がより以上必要であらうと思ふ。全く我國の現狀では婦人矯風會の存在は寧ろ第二であつて、男子矯風會が第一である。私の知る範圍では只一つ其會がある。けれども微々として甚だ振はないのは何故か。同會の一項目に蓄妾を固く禁じてゐるから從つて不品行の男子は入會する事が出來ぬので會員が少數であるといふ、之杯も男子が我儘で婦人の不品行をのみ固く誡める一例である。

□立憲的と官僚的との衝突

偖て如斯頽廢した風紀を一朝にして之を矯めるといふ事は甚だ容易でないが、要するに其方法の一としては婦人の位置を今日よりもつと／＼高くする事である。婦人が男子同樣の位置にあれば、男女共に同資格の制裁力が備つて來る事になる。從つて男子は今日の如うな我儘が出來なくなつて來る其結果社會の風紀は漸次改まつて來るに相違ない。で位置を高くする方法は何かといふに、其等は頗る簡單である。曰く敎育。

元來人間は男女共に身體と金力とは共に必要であるといふけれ共、夫より大切な者は即ち腦の力である。腦力に於て若し、男子より劣つて居なかつた場合には男子は今日の如き我儘な振舞は出來なくなるのである。さうなつて初めて前に述べた立憲政治が見られるのである。然るに此見地を有し理想を有して居るにも拘はらず一度家庭に歸れば如何か、家庭は極端な官僚政治で主人は絶體無限な勢力を有つて居るが、妻や子の人格を認めて居ないのだから、我國の立憲政治が理想通りに行かないのも、亦無理ならぬのである。

然るに一度足を家庭外に踏出せば立憲政治なるが爲め、結局官僚と立憲との二つの政治を用ひて居る。されば如何に我々が心氣一轉するに妙を得て居るとしても、到底不可能であるのみならず甚だ不利益であるは謂ふ迄もなく延いては國家に取つても亦不利益たるを免れない。如斯現今の家庭と國家とが、矛盾の狀態にあるが爲め、國利民福が共に得られないのである。之と同じ意味で男女權力の區別を立てる事は孰れの方面から見ても眞に不利益である許りではない。人類の進化を阻むものである。物平を得ざれば即ち鳴るで男女間に風紀の問題が生ずる宜なりである。

□家庭議會を開會せよ

家庭内に於ける狀態は大概右の通りである。されば此際是非共、官僚政治を排して、立憲政治を採る可きであつて、我が議會へ代議士を送つて、一ケ年の收支豫算を案配するやうに、矢張り家庭に於ても其例に倣らひ、家庭議會を開いて來年の豫算を決議する事が當然の必要である。即ち子供の敎育費、妻の費用、主人の費用等其他主なる經費を見積つて、之を家庭一致で案配する事にしたい。さういふ風に常に財產を公開して置けば一家は勢ひ立憲的になつて來て、家庭内に不都合といふ者が全然芟除されて了ふ。何故なれば假令へ主

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

人が妻に内密の支出があつた際には、帳簿上に直ぐ表れて來るから待合等に出入する事が出來なくなつて來る。畢竟妻は常に會計檢査院となつて、始終會計の收支を調査する等の如きは、確に家庭をして立憲的に爲さしむる一の方法である。我々は是非こゝ迄進まなければならぬ。

□尊敬の念起らぬ女の顔

私が度々話した事ではあるが、嘗て海老名彈正氏の文部省展覽會の感想談に、我日本の美人畫は美は卽ち美だが何れを見ても、尊敬の念を誘起す容貌はない。只佛畫の觀音樣丈である。と云はれた。私は之れに就て理由がある事だと考へて居る。全體日本の男子が婦人を觀る眼が既によろしくない。平常婦人を輕蔑して居る。婦人は丁度男子の玩具かの如く考へて居るから、夫れが深く頭の中に潜んで居て美を美として尊敬の念を持たずに描くからだと思はれる。

斯く男は女を玩具視して些少の尊敬すらも持たないといふが、今度は現代男子を殊に待合等に出入する、政治家、軍人實業家といふ極めて社會的地位のある、而して相當人格あると我々が是認する人達を、反對に藝妓側から見たら何うであらう。我々が男子を尊敬の眼で見るであらうか。藝妓が姿を晦して時々議會へ出沒するといふ事を聞いたが其時男子が議會に於て堂々と議政を爭つて居る狀態を見ても、其男子に敬虔の念を拂ふであらうか。否彼等藝妓の考へでも人格を認めまいと思ふ。如斯互に其人格を認めなくなつて來ると、一國は實に不幸此上なしである。其處に風紀問題の根源が橫つて居るのであつて、男子が待合等に出入して藝妓を弄ぶ事は甚だ痛嘆に堪へざる事と謂はねばならぬ。

□婦人を侮蔑せる制度を廢せ

されば金を以つて婦人の節操を購ふ事の出來る制度を、廢止して之を固く禁ずれば勢ひ婦人に對して敬意を表するやうになつて來る。卽ち公娼制度の如き國家が之を公然と是認して、男子の我儘に委せしめて置く今日の狀態では婦人の人格を認める事も能ない事になる。外國に行けば公娼に類した者もある、併し夫れは甚だ裏面の事で、若い人々の多くは知らない者が多い。夫程極めて之を社會の表面に現はさぬやう、何れの國の當局者も充分苦心して居るのであるが、我國の現狀は夫等と全然反對で、明い處に之を曝け出して誰にも見る事が出來る樣になつて居る、實に由々敷問題であると謂はねばならない。此弊害は啻に婦人を輕蔑する理由となる許りでなく、男子自身が人格を傷ける事の甚だ最大なるものであり、更に子供の爲めに最も不都合であつて、私共が家庭を脅す一大不祥の制度と謂はざるを得ないのである。故に公娼制度は風紀上から觀て一日も之を存在するを赦さぬ事が明瞭である。私が諸君に此公娼制度全廢に最善の努力を乞はん事を切望する所以である。

會告

來月號から大に趣味ある記事を書いて尙一層誌上を賑はさうと思つて居ますが、會員の御方で何にか面白い材料や、亦風紀問題杯に關する資料となるべきこと及評論隨筆等はドシ〳〵投書して下さい。

婦人問題と貞操（一）

廓清會評議員　法學博士　浮田和民

一　教育の方法は時勢と共に變す

何れの時代に於ても教育が時勢とかけ離れてをつては、形式は出來るが、其内容に於て効果を收められぬのは云ふまでもない。故に教育者の心中に認識して明白なる概念を持たねばならぬ事は、今日の時勢は如何なる時勢かと云ふ事である。更に適切に云へば、其人間が一代に亘つて、生れてから死ぬまでの社會狀態を考へて、夫れに順應せる教育を施し、其人を一人前の人物となすと云ふ點である。之れを過去の事例に徵すれば封建の時代に於ては封建的の教育があつた。夫れは今日の教育法とは、違つてゐるが。戰國時代に適した教育法であり、夫れを受けねば一人前とはなれなかつたのである。即ち士族は武藝、讀書。婦人は士族の階級にあるものには、武士の妻たる丈けの覺悟と用意とを敎えられた。又農民の如きも今日より見れば、甚だ不完全なやうであるが、然し百姓として祖先傳來の智識と經驗を受け繼いで、耕耘、肥料、播種等、夫れ〳〵必要のことを習得し、之れを子孫に傳へた。之れ農家の教育である。すべて維新前に至るまでは以上の如く士、農、工、商と、夫れ〳〵其身分階級に從つて、教育せられて來た。故に維新前には普通教育なくして、今日のみ之れがあると云ふことは出來ないのであつて。當時の時勢は之れ丈けの教育を受くれば事足りたから、何も之れ以上の教育は、一般國民に必要なかつたのである。即ち時勢其ものが夫れ以上を要求しなかつたのである。

然るに今日は維新以前、封建の時代と違ひ、國民一般に平等の教育を受くるに至つた。今日の社會は何れの方面に働くにも。一通りの讀み書き、算術は心得てゐればならぬ時勢となつた、昔の樣に武士は武士、町人は町人と云ふ譯には行かぬ。之れ即ち時勢變遷の結果である。社會上、政治上、經濟上の變化は昔の如く子は親の業を繼ぎ孫は子の業を續ぐと云ふ次第であるならば、武士は武士、百姓は百姓でよいのであるが、今日は親は百姓でも、子は政治家となり父は軍人でも子は商人となると云ふ時勢であるから、教育上の方針が自ら變らざるを得ないのである。親は子供を束縛する事は出來ないから、子供が何になるかは豫想することは出來ない。親は子供に何れにも行けるやうに教育を施してやらればならぬ。之れ予が教育の方法手段が時勢の變遷に伴はればたらぬと云ふ所以である。

二　教育の理想と過去に於ける弊

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

今日は大正の時代である。明治時代ではない。況して封建時代に後戻ることはない。故に一般普通の敎育は此點に留意しなければならぬ。今日は軍人になるものもあらう、又官吏となるものもあらう。しかし小學生百人中の九十人は實業に從事するものと見るのが至當である。商業、工業、農業、國民の大多數は大抵其範圍內にある。そこで、彼等の敎育は人間相互に信用を重んずること、虛僞に對する嚴格なる訓戒、他人に對して親切なること、事業に熱心にして、獨創力を發揮し得ること等が最も必要である。切言すれば、「人」として立派であると云ふことが必要である。然るに敎育家は動もすれば斯樣な事よりも楠公、小楠公とか、赤穗四十七士とか云ふことを敎へる、四十七士の義烈は面白い。しかし如何なる變化があらうが、大正の日本が、元祿十四年の昔に後戾りすることはない。況んや南北朝時代をや。楠正成を敎え、大石義雄を敎ゆるは、封建時代や戰國時代には必要であるが、今日の時勢には必要はない。夫れよりも信用の尊きこと、虛僞の卑しむべきこと、熱心忠實は事業の第一資本なることを敎ゆるが大事である。

斯く云へばそれ位の事は何人も心得てゐると云ふであらう。しかし實際は日本國民程商業上の取引に於て醜體を演じて居る國は少ない。國内の同胞間の商業にもさうであるが、一歩海外貿易に目を轉ずる時は、實に浩歎に堪へない。日本には「商賣と屛風は眞直ではたゝぬ」と云ふ言葉があるが、日本の商人は夫れを眞理と思ひ、互に欺き合ふてゐる。外國人に對しては殊に甚だしい。今回の戰亂に際し、露國などから多額の軍需品の注文がある。其他一般日用品の注文が續々として來る。然るに商人等は粗製濫造、全く用に立たぬものを賣りつけるのである。

故に一度之れを經驗するものは二度と再び賴まぬと云ふ次第露國などでは、「弊店は日本品を賣らず」と店頭に麗々しく揭げてをると云ふ有樣である。之れ形式的の忠君愛國を鼓吹し形式的に勅語捧讀をなし、毫も時勢と云ふことを辨へざる形式敎育の結果であると思ふ。故に國民敎育は今日の時勢がどう云ふ時勢かと云ふことを見て、之れをやらねばならぬ。敎育の理想を過去に置かずして、將來に置かねばならぬ。

三　高等女學の敎育を改革せよ

女子の敎育に於ても同樣である。殊に今日予が社會の反省を促さんとする所は女子敎育の必要と云ふことである。今日男子仲間の輿論を聞くに、女子には高等敎育の必要なし、高等女學校でもやれば澤山だと云ふのである。女子の敎育は高等女學校が打切りと云ふのは、今日識者と云ふ人々の議論である。勿論我々とても凡ての女子に高等敎育を授けよと云ふのでない。予が女子高等敎育必要を云ふのは、男子の高等敎育に於けるが如く然りである。男子に高等敎育必要なれど、凡ての男子が大學に學ぶ譯でない。大學に入るものは學術の蘊奧を究むるを得べき才能あるものゝみである。女子に於ても同樣である。凡ての女子が高等敎育を受くるは不可能のことである。多くの女子は高等女學校の敎育を改革して、今日よりも有効なるものとし、一人前の「人間」を作るやうに行れば夫れでよからう、只だ志あるものは更に上進すべき必要があると云ふのである。女として一家の主婦たるべく、遺憾なからしむるには、今日の高等女學校の敎育は未だしである

況んや更に上に進まんとするに於てをや。殊に今日の時勢は女子教育の上に、大に考へねばならぬ時である。世人口を開けば賢母良妻主義の教育と云ふのであるが、今日は結婚と云ふことが、青年男女に取りて一大問題である。生活と云ふ當面の問題は結婚と云ふことに就て先づ義務を感せしむる、結婚によつて生ずる當然の結果として子女の教育問題を考へしむる。そこで女子と雖も安閑として居る譯には行かない。男子の片腕となり共に家業を經營し、一家を整理して行かねばならぬ時代となつたのである。以上は國内に於ける問題であるが、一度思ひを海外發展と云ふことに運べば如何、今日多くの人々は海外發展と云へば、青年男子の教育のみに目をつけるが、彼等を後援する女子なくして、どうして眞個の海外發展が出來るか。男と女とは兩手兩足である双方相待ち相助けて何事も出來るのである。今日の時勢が斯う云ふ時勢であることを思はゞ、男子のみの教育を重んじて、女子の教育を輕視するの不當なることが分るのである特に遺傳の法則などを考ふる時は、何人も之れを感ずる筈である。何となれば父の天性は男兒に傳はり、母の天性は女兒に傳はるものならよいが。遺傳の法則は双方が、男兒にも女兒にも傳はるものであるからである。故に男子のみ進歩せる智能を有するも、女子が平凡淺識なれば、生るゝ子は退歩するのである、されば男子に高等教育を必要とすれば女子も之れに劣らざるを要する。斯くて社會は進歩し向上するのである。(次號につゞく)

* * * * *

田舍女と女優生活

東京の某所で淺草公園六區の大小劇場に出る低級の女優を募集して居る廣告がある。輕跳なる現代の若い女は虚僞な華やかな女優生活に、心を唆されて一日平均十五六名づゝの應募者がある。年齢は十四五歳から十八九歳までゞ教育は大概高等小學の卒業生であるが中には高等女學校を出たものも二三人ある。手紙で志願して來る者の内には多くは父がないとか、母親があるが繼しい仲であるとか、又は今の母に伴られて父の許に行つたもので、同じ働くなら綺麗な服裝して花の如く舞臺に立ち現はれて華やかな女優生活がして見度い。と云つた樣な淡い空想に捉はれた虚榮的なものもある―、又家庭の悲劇に押出された者も多數である。思想の單純な地方の郷娘の心に潜む悲劇―煩悶苦痛―察した處でゝも窺はれる。

女は弱者に非らず

「弱き者よ汝の名は女也」杯と女を無暗に弱い者と世間は極め掛つて居るが、何うして〱女は弱い處か男杯は迚も側へも寄付けぬ強い力を持つて居る其證據には一朝天災地變が勃發した時の女の働き振りは實に男に敗けないのはそれだ。常ならば物の一貫も持つと直ぐ屁古垂れる女でも、火事杯の時は男と一緒に牛馬でも乃至は其他の重量な物でも、クル〱と擔ぐ、就中自分の衣服類等と來たら男が十貫目擔ぎ出すものなら、女は其の二倍即ち廿貫目は裕に持出す之を見ても女に力がないとは云はれない。只常に男子が女は弱い者だとして働かせぬから、其實力が現はれぬのであるといふ人がある。けれども其見解は女を全然器械視して、人間の價値を認めぬ甚しい者であると謂はればならない。何故なればそれは只力の問題で、内面即ち意志の問題に於て、深く立入つて見なければ眞正徹底した斷定は出來ぬからである。

女性の男性化

廓清會評議員　高島米峰

■■蜜蜂の生活と女子中心主義‖釋迦も孔子もヒヨコ〳〵と產む■■

新らしい女も大抵かたがついたやうである。妻君になつたり母になつたり、墮落したり、行く可き處にそれ〴〵行つたそれではもう新らしい女はなくなつたかといふと、さうではない。一般の婦人が新しくなつて來てゐるのである。

一體男と女とを比べて見ると、女はどうも男の附屬物のやうである。基督教でも女は男の肋骨を取つて作つたとしてあつて、其の發生からして男が女の前に兜を脱げない樣に出來てゐる。佛教儒教も亦元より男より卑しいものとしてゐる。けれどもそれは今日の文明が男子中心である爲めに左樣に考へられるのであつて社會の文化人類の向上は決して男子中心に定まつたものではない。天動說が地動說に粉碎せられる時機が來たやうに、男子中心說も當然破壞されて女子中心說にならなければならないとする者がある。新らしい女に之を說明させると『蜜蜂の生活を見るがよい。彼等の生活は實に女子中心である。蜜蜂の一團體は女王の爲め朝夕營々として働き、身命を捧げて之にかしづいてゐるではないか、團體生活の發達した蜜蜂の社會によつて、人間の女子中心たるべきを敎へらるゝ』と謂ふ之にも理屈があらうが、要するに人間を直に蜜蜂にして了ふのは甚だ以て穩かでない。

乍併よく考へて見ると、男子は實際女に非常な手數をかけてゐる。吾々がおぎあと生れて後も其前の姙娠中も、隨分女の御厄介になる、子供の時に限らず、私の樣な年になつても、食ふ着る皆細君のお世話に預つてゐる。實に感謝の至りである。斯ういふとイヤ俺は下宿屋に居つて獨身者だから別段女の世話にはならぬといふ者があるかも知れぬ。けれども下宿屋の女中といふのは男ぢやあるまい。掃除、食事、裁縫、何人も女の厄介にならずには殆んど生きて行かれない。實に有難い。昔一休和尚は「世の中に女程尊きものはなし、釋迦も孔子もひよこ〳〵と生む」と謂はれた。學者、藝術家、英雄豪傑は誰が產むか、やはり女がひよこ〳〵と產むのである。いくら力んでも男が產む事は出來ない、問題は玆に於て簡單明瞭である。

■■食はせる男が偉いんぢやない‖働かせて座食する女の方が偉い■■

男の間にはまた斯ういふ考へが隨分行はれてゐる。男は女を食はせて置く、男が働いて女を食はせるのだから、俺達が威張るのは當り前だし、食はせて頂く細君が頭を下げるのは不思議とするに足らぬ。ところが又考へ樣もあつたもので女に云はせるとそれが全く反對になる。『旦那の仰やる事は御尤でござゐます。旦那は全く三助や女中よりお偉いに違いない

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

併し其の偉い旦那に働かせて居る妾の方がもつと偉いのよ』と仰しやる。なる程斯うなると働く方より働かせる方が偉さうだ、此の觀方は又蜜蜂の女王觀と一致する。若し之が旦那の理屈が成立せず、細君の意見が正しいとすれば全く女は偉いものになる。けれども偉いから男を働かして遊んでゐるといふ觀方は必ずしも正當でない。女が働かぬといふ事は、男が餘りに働き過ぎるからだと思ふ。之れが五分々々に働いて居れば這麽偉い爭ひなどは起らない。今逆に考へて細君が働いて多くの收入を得、亭主は細君から小使を頂戴するやうな事になつたら如何だらう。斯うなれば無論女中心になるのは當然で、生活上男子が働く必要がなくなつて了ふて、宿六が左團扇でごろつく樣になる。女髮結といふ商賣があるが、之は中々金になる商賣で、髮結さんの亭主と云へば乾度懷手で遊んで食はして貰つてゐる。して見ると我々男子が働らいて食はせてゐるから男中心だといふ議論も働かせて食つてやるから女中心だといふ議論も決着がつかない。

今迄女は食はせて貰ふ筈のものと考へ其の代り貞節を夫に盡して夫のいふ事は何でも御無理御尤で居た。斯う行けば如何にも天下泰平であるが、專制政治は決して永くは續かない。之は元來男子が加工して、男に都合の好い樣に女を細工したものであつて、此の細工によつて男子中心主義が成立してゐたのであるが、女は何時迄も人形ではゐられない。女が段々人間になつて來ると、御無理御尤で濟まされなくなつて、天下が泰平でなくなるのである。

■■女のすなる行燈袴てふものを＝男もすなる女性化せる現代の墮落■■

今日では既に女が段々偉くなつて來た。人形でなくなつて來たが、どうやら女が男になつて來た。さうすると奇妙な事にはあべこべに男が女になつて來たのである。近來はセルの袴といふ奴が流行り出した。それは多く行燈袴である。行燈袴を穿いてシヤナリ〳〵する抔は實に癪に觸る。昔は女でさへ行燈袴は穿かなかつた。馬に乘るのに『女も男のやうに跨つて乘る可し』といふ規則さへあつた時代があつて横に腰掛けて乘るんでなく跨いで乘る以上は無論袴は襠高であつた。女が行燈袴を穿く樣になつたのは極めて近代の事で、女が穿くさへ意氣地のなくなつた象徴とも見るを得るのであつて、女は未だ好いとして男が之を穿くに至つては言語同斷、其意氣地なき顏に唾でもひツ掛けてやりたい樣だ。紀の貫之は土佐日記を書く時、『男のすなる日記てふものを女もして見んとて』と序文に書いたが『女のすなる行燈袴てふものを男もして見んとてすなり』と逆に來てはがつかりだ。男が行燈袴を穿くのもたゞそれ丈なら未だ恕すべしであるが、此頃の青年は何だか色々なものを顏に塗るといふ事だ、之はどうも實に怪しからん。電車の中などでもどうもさういふ人間を見かけるが、斯うなつては沙汰の限りで、若い内に顏や頭を光らせる事を考へなくとも光るのは時の問題で、我々の樣な年輩になれば厭でも應でも此の通り自然に光つて來る。若い時から光る工夫なぞして今にどうする考へだ。其上妙な香ひのするもの迄も振りかけてゐる。實に妙だ大學白粉などはさういふ爲めに出來てゐるのだといふて[illegible]つてゐる。之れはつまり男が女に降參したのである。道樂事迄して男が女の眞似をしなくとも、老人になれば男女の境界は頗る不鮮明になる。殊に花さかお茶の先生などいふ連中になると全く男女の見解が困難になる妙な頭巾を冠つて被布なんど着込んで居らつしやる、年寄はまあ仕方がないとして、之から男にならう、之

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

から妍にならうといふ若い人達が男だか女だか分らなくなつて來ては大恐慌だ。

■■母家に釣合はぬ四十女の大庇

‖結婚難の襲來は年と共に甚し■■

男性の女性化と共に、女性の男性化も愈々著しくなつて來た。殊に近來の奇觀は令孃が角力取りの眞似を始めた事である。以前は夜具か角力取りでなくては着なかつた樣な大模樣の着物を着て平氣で澄して居る。一體これはどんなお考へか見當がつかぬ、此間江原素六氏と逢つた時の話に、先生の曰はれるのには『自分達の若い頃は、女は四十にもなると愼ましやかに小さく髷を結つた者である。それが近頃は四十は愚か五十六十になる婆さん迄が、途方もない大きな髷を結つてゐる』といふ事であつた。軒を接した家では少しでも庇が出過ぎると矢釜しいものであるが、其處は人間の庇だから誰も抗議を申込まないで仕合だ。けれども先づ庇は母家に釣合はなくては可笑しい。

今迄の女は男子中心主義であつたから、生活難に直接關係するのは男許りであつた、處が今日では生活難の壓迫は愈々迫まつて男丈では受切れなくなつて、女に分けて遣る事になつた昔は男が年頃になれば妻を娶つて生活して行く事が比較的容易であつた今日では却てさうは行かぬ。昔は『四十にして家を治めず』などゝ云つて笑つた者だが、今日では四十五十の窮措大はくらもある。三十にして妻を娶るのは偉い方である。新聞に表はるゝ、花嫁花婿を見ると皆左樣である。新聞に出る位な偉い人達でさへ左樣である。私が結婚した時などは新聞になぞ載せて與れなかつた。いやそんな事は流行らなかつた。斯樣に今日の社會では妻を持つといふ事が經濟上容易でない、妻を養ふ處か自分一人の口を糊するのが既に問題である。そこで妻君が欲しくても我慢をする、之が卽ち背に腹は代へられぬといふのである。男が止むなく我慢する結果は無論其影響が女に及んで來る。男が隱忍持久して妻を貰はぬから勢ひ女も自分で働いて生きて行かねばならない事になる。妻を貰ふ者は男女同時に實力がなくてはならぬ。折角世帶持つても其內には膨れ出す、子供が一人飛出すと細君の內職が不可能になり、費用は愈々嵩む、獨身生活は男女共益に殖えざるを得ないのである。

■■萎びれては賣物も買口が惡い

‖パンと帶と兩方欲しい女の虛榮■■

獨身生活も男はまあよいとして、女は色々困る事が出來る。第一は結婚時期といふものがあつてそれが而も甚だ短期である。『鬼も十八番茶も出花』と云ふて盛りを過ぎると、八百屋の店頭にある賣物と一般、萎びれば賣れなくなる。其處は人情だから仕方がない。故に女に實力あつて男の世話にならなくとも、結婚期を通り過して了ふと、職業婦人とならなくてはならぬ。近來此の職業婦人の漸次增加し來つたのも此爲めで、此間の新聞による遞信省には判任一等の者もあるといふ。併し此れは職業婦人中の例外で、大多數は工場の樣な處に働いてゐる。獨身者もあれば夫あり子ある者もある、夫婦共稼ぎも亦甚だ多い。要するに低級な者程矢張り職業を求める必要があるのである。此中には勿論虛榮心も大分ある、[illegible]を下げ度くないといふ處から來るのは、虛榮心でも貴む可きではない。

併し虛榮心は女の大なる病弊で、殆んど男の想像し得られぬ程のものである。どんなに飢えてゐる時でも一本の帶を手離す事が出來ない。三越や白木では垂涎三千丈。時としては夢現になつて手が獨りでに長くなつて了ふ。男はどうかといふと飢えた時一本の帶よりパンを取るが、女はパンと帶と兩方欲しいのだから全く以て叶はない。

■■女の東京市長はどんなものだ

‖不自然な感じがするは古い頭か■■

男性が女性化して女に降伏し、女性が男性化して經濟的にも獨立して男に頭を下げなくなつて來たに就て、茲に考へなくてはならぬ問題がある。それは女が如何に偉くなつても女はやはり女たる事だ。男も然りで、何處迄女の眞似をした處で男は男に違ひない。此の境界のある事を忘れてはならぬ境界が儼として女を男たらざらしめ、男を女たらざらしめて

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

ゐる以上、男女が對等であつても同一でないのである。

昔から男は男らしく女は女らしくせよと云つて教育して來た。之は性能に從つて其の發達を遂げしむる所以であるが、女を壓迫して男子の趣味或は御都合によつて鑄型に入れたから惡かつた。處が今度は男女對等と云ふ事を同一といふ事と混淆して、男のやる事は何でもやると執團き、女で兵役にも服しやうといふ勢ひである。けれども男女は對等で互に尊敬しなくてはならぬが全く世界が違ふ。亞米利加のオレゴン州の或市では先達は市長の選擧が行はれて、其の候補者に夫婦が名乘りを擧げ、妻君と亭主と猛烈な競爭を行つた。何方が勝つかと云へばいふ迄もなく細君が負けて亭主が當選した。と我々は考へたのであるが事實は反對に細君が當選して、亭主はまんまと落選して了つた。女の市長!? 一寸どうも妙ですな、やつて出來ない事はなからうが、何うも變に聞える、假りに東京市で奥田市長が電燈問題が何かで蹉躓して辭職したとする。すると其の候補者に内ケ崎作三郎氏と同清子夫人が共に名乘を擧げて競つた結果、夫人の方が當選したらどんなものだらう。東京市長内ケ崎作三郎君！と云へば尤もらしい。どうも市長らしく聞えるが、東京市長内ケ崎夫人君!!といふと頗る變だ、之は我々が古いのかも知れぬが、どうも不自然に響く。亞米利加ではそれでよいか知らが、日本では御免蒙りたい樣な氣がする、何故かなれば前にいふ如く男女同一ではないからである。

■■男女は對等なれ共同一に非ず＝
＝柔能く剛を制する處が人世の妙味■■

一體女は「可愛がればつけ上り白い齒を見せれば甘つたれ、怒れば脹れ、叩けば泣く」といふ始末に行かないものだ、其上「殺せば化けて出る」といふ厄介者である、そこで孔子も女子と小人は養ひ難しと云はれたのであつて、數年後には日本にも女の理學博士が出來る事は殆んど既定の事實で、或る私立大學に二人の女があつて而も男子の學生を凌ぐ好成績であるといふ事だ、女性の内にも決して市長としての手腕經綸を有する者を出す事がないとは限らない現狀であるとしても、女悉くが決して傑くなつて了つた譯ではない。傑い人の進路を束縛してはならないが、若し婦人全體が少くとも男子に對抗する丈の實力を供へて來たとするならば、今晩の樣な演說會には半分は婦人が出席されなくてはならぬ。然るに男子の十分の一にも滿たぬ少數の婦人を見るのみであるから、之れでは既に衆寡敵せず勝敗は戰はずして明白である。

近來臨々亞米利加から來て飛行機の宙返りをやつてゐる婦人がある。日本男子顔色なしであるが宙返りは落ちさへしなければ誠に優美なもので甚だ結構であるけれども、呉々も斷つて置きたいのは男女は對等ではあるが同一でない事だ。男は即ち剛、女は即ち柔、之れが男女の特性である。と云つて女子は男子に從へといふのではない、昔から柔よく剛を制すといふてあつて、驟雨が沛然と來るよりは此頃のやうに霖雨がジメ〳〵と女が泣くやうな降り方は黴菌となつて我々を苦しめるものだ、女が其の力ある柔を捨てゝ大なる努力奮闘によつて剛の形を取るならば、却つて男性に勝る見込はない、女は天來の特性を發揮して柔能く剛を制するといふ實權を握る方が最も賢なる行方であり、女自身の幸福である。

假へば市長となつて自己の主義政見を行ふやうな偉人となるのもよいが、妻として夫に自己の經綸を行らせてもよいではないか、支那では『牝鷄朝すれば世が亂れる』と云ふが『牡鷄すゝめて牝鷄時をつくる』ならば甚だ圓滿である。日本の婦人が自ら偉人となる事は元より望ましいが、更に偉人を産み偉人を育て偉人の母となる事は、より婦人としての幸福であるまいか。（興濟會講演大要）

一條忠衞氏著
◎男女道德論（定價一圓三十五錢 本會にて取次ぐ）

一條氏は余の最も畏服尊敬する男女道德攻究の青年篤學者である。隨分知名の學者も多いが氏の如き明確な學說を掘つて居る人はない。世に行はれる一夫一婦論や貞操論なども淺薄皮相一も推服するに足らぬのであるが、獨り余は一條氏によつて啓發された處少くないのである。本誌讀者の知らるゝ如く淨瑠璃の男女道德の如きも、實に新らしい見地から男女の人格的結合を論ぜられる處實に明快、本書の如き傑出した著述が現はれた事は我々男女道德向上の運動者に取つて喜び此上もない譯で、男女道德に正しい智識を要する我が興濟會員の机上には是非必要な書である（江南生）

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

飲酒と犯罪

帝大教授 醫學博士 片山國嘉

□飲酒と風紀問題

『世の中に酒と女は敵なり。』とは昔から傳つた言葉だが、それに落語家が付加へて『何うか敵に邂逅ひ度い』と謂つてゐる。言葉は簡單であるが、熟く味はふと實に旨い事を云つた者だと感心する外ない。全く此言葉は社會心理を了解し盡したものである。と云つて之を此儘放任して置く譯には何うしても行かぬ。惡いと知り乍ら平氣で等閑視する事は出來ない何處迄も此弊を矯めて廓淸せねばならぬ茲が我々の風紀廓淸を主張する所以である。併し廓淸も只理想許りでは徹底しない、必ず實蹟を擧げる事に努めなければならぬ。其實蹟を擧げるのには、前の社會心理を知つて後、それに當箝つた實行方法を講ずる事が必要である。

扨て前にも云つた如に、酒は世の中の敵である事は呶說せずとも明白である。何時如何なる國でも酒は社會風紀上に大關係があつて、歐米諸國の統計表を觀るも、亦吾々の如き專門の方面から研究調査しても酒の及ぼす害毒が如何に大なるかは、全く驚く可きものがある。

日本橋の或る機業家の男が實姉を殺した事件があつた。其原因を探究すると僅に二三合の酒が悲劇を惹起する緣因で、全く犯罪の動機は酒其者であつたのだ。

□飲酒は犯罪を強要す

又赤坂では或老人が、日頃非常に愛撫して居た孫を殺した慘事がある。如う考へても人殺をするやうな事は信じられぬお人よしが、不意に而も可愛くて堪めるやうな孫を殺した。で漸々調査すると其老人は平素飲酒家であつた爲め、アルコール中毒に罹つて遂に精神病者となつたが爲めである事が判つた。だから老人には毛頭殺意がなく、全く酒が殺意迄も起さした原因であつた。加も此老人の既往に遡れば、今日小說芝居活動探でやる松平外記の七人斬した後胤が七人斬を行つたといふ血統を引いた者であつた。之は遺傳である。老人は殺人罪として收監されて、程なく精神は囘復した時、後悔の餘り非常に慟哭したさうである。

又牛込では界隈切つての親孝行者が親を殺した。親は酒呑みで子を隨分虐酷にする。夫が爲め何うも嫁が居付かぬ。或日二三度目の嫁が、什うも是れでは堪も居溜れぬと日光へ行く心算で、上野の停車場へ行つて切符迄買つた。が兎に角一應向島の叔父の所へ行つて訴へて見やうといふので、彼れから引返して叔父に其事を物語つた。叔父は非常に同情して大に慰めて吳れた。

然るに其慰める手段として酒は憂の玉帚と稱して酒を與へたのが、抑も大慘劇を演ずる原因を作つたのであつた。叔父とても豈夫其麽事が起らうとは、神ならぬ身の知るよしも無かつたに相違ない。嫁は夫れでは一先歸つて話をして見やうと叔父の處を辭して、嫁入先へ行く途中で又小量の酒を呑むだ。而して遂に親の頸に手拭を卷いて締殺して了つた。酒が

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

醒めて正氣になつた時、初めて驚いたが最う取り返しが付かなかつた。

□英と大陸との飲酒振り

先程群馬縣前橋の德江亥之助氏の話では、前橋監獄での調査の結果六百人の內三分二は飲酒家であつたと聞くが、啻に群馬縣に限らず世界各國に於ける飲酒より來る犯罪數を嚴密に調査したら、現在の統計上の數より遙かに多い事だらうと思ふ。我國の監獄の調査では比較的少ない事になつて居るが、三宅和歌山典獄の調査に據ると、犯罪人百人中の內八十人は飲酒から來たといふ。飲酒と云つても強ち大酒を指す者ではない。前にも述べた如うに僅二三合で實姉を殺す如うな例は頗る多いのである。却て大酒を吁つて手足の自由を失ふよりも、さうならない程度の場合の方が如うしても犯罪を犯し易い事になる。又平素酒を飲む習慣のある人許が犯罪をするかといふに、之も決して然う許りは斷言出來ない。夫よりも偶々大酒を爲す者の方が多い樣である。其ういふ關係の差がある。英國と歐洲大陸との飲酒振りを見ると、英國は日曜日に酒を賣らないので此日は犯罪が割合に少ない。然るに大陸の方は平日同樣酒を賣るから英國とは全然反對に犯罪が多くなるさうである。斯樣に飲酒の多寡と犯罪とは常に正比例を爲して居るのである

□風俗犯は飲酒より

夫から飲酒の害は心理的から論斷する事が能る。此事に就ては時間が赦さぬから茲では省いて置くけれども、如何考へて見ても延命酒杯と稱する事は出來ない。何故飲酒と犯罪が斯く迄密接なる關係を持つて居るかといふに、酒は全く人心を錯亂せしめるからであつて其證據には泥醉して拘引される者の多いのは卽ち夫れである。飲酒しない時は隨分眞面目な人でも、一旦醉つたら最後、警官や制する人達に迄抵抗して手古摺せる。多くの殺人罪を犯す動機は大半、一時的精神錯亂の者が多いやうで、獨逸のベルリンの監獄醫が調査した犯罪統計に依ると百人中七十八人五分は飲酒であつたといふ。日本も略ぼ之に似て居るやうである。是を觀ても飲酒の害毒の如何に怖る可き者があるかは判るであらう。

飲酒は本人に直接惡影響を及ぼす許りでなく、子孫に尙多くの害毒を流す事である。卽ち飲酒の害が子孫に遺傳して種々の惡影響を及ぼし、それが犯罪に表はれる事は夥い者がある。監獄で調査した統計に依ると百人中四十三＝七は皆親及祖父の遺傳の結果であつた。而して飲酒上より來る犯罪は風俗犯が最も多い卽ち欺詐窃盜等凡て道德心の薄い結果から來るやうである。是等は酒精中毒に罹つた爲に外ならない。

□不良少年の簇出を促す

飲酒と犯罪の關係のみに止らず、飲酒家の子孫には矢張飲酒家が出來る。だから自分一人の影響許りでなく、何代も何代も家族に其惡影響を與へる事になるのである。這麽ことをいふとそれなら戰爭の爲め手足を失つた人の子に手足の具備せない子の出來ないのは何ういふものかといふ人がある。併し之は全體を盡して居ない。何故なれば身體の何處に限らず一時の器械的の損傷は決して遺傳しないからである。其證據には猫の尾は度々切斷するが、何代切斷しても相變らず尾がある。卽ちそれだ。廣島地方の或有志家が飲酒と犯罪に就き調査した結果も立派に其事實を證明したといふ話である。併し遺傳が飲酒にも關係あるなれば、飲酒家の子に飲酒家の生れぬ場合があるのは何ういふ理由かと疑ふ人があるであ

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

らう。元來遺傳には隔世の者もあつて、時には二三代を隔てた子孫に其累を及ぼす事も珍しくない。だから健全なる子孫は飲酒家の間に時としては生れぬ限りもないが、多くは不健全なる所謂藥石に依つて僅に壽命を保つ柔弱者か、若くば不良少年輩の簇出する事は爭はれない事實である。

□容易なる禁酒方法

凡そ飲酒の害は只其酒の中に含まれてある幾多の害質より來る弊害に止らず、必らず酒には女が附き者であつて、酒を吞めば大抵の者は氣がフラ〱して遂に紅燈の巷に足を向ける事になる。其結果は放蕩者となつて紅燈綠酒の裡から遁れ去る事が出來ず、知らず〱の間に肉體精神共爛れて行つて、多くは花柳病さへ引受けて折角の純潔な者も可惜世の中の敵の虜となり終るのである。世の風紀問題の解決の一歩は茲に着眼する要がある。男女問題の凡ての事柄も亦此點に注意して、社會心理の研究を怠つてはならぬ。

如斯飲酒の害の恐る可き者があるのは今更謂ふ迄もない事だが、それならば此飲酒の惡弊を矯める方法は如何なる手段を講ずればよいか。其點には種々の議論があつて、或者は法律を以て酒の販賣を禁ずると共に飲酒の罪を嚴罰して漸次飲酒の習慣を矯正すれば好いと謂ふ人がある。現に亞米利加合衆國の大半も、露國に於ても共に其例を實行して相當の成績を擧げて居る

乍併自分は其狀況を實見した者でないから、眞實其方法に依つて好成績を治め得るか何うかは知らないが、要するに最善の方法を研究の結果、畢竟子供の時代より飲酒させぬ樣注意する事が極めて肝腎である。一度中毒に罹つて居る者に强制的に禁止を命じた處が、其者は果して陰へ廻つて反抗しないか何うか疑問であつて、之は何うしても飲酒の習慣を付けないやうに留意することこそ最も容易な方法だと思ふ。然るに飲酒の害を知らぬ家族の間には、子供に奬めて飲酒の稽古をさせる者がある。尤も害を知つては居れど子供が赤くなるを見て面白半分に笑ひ興ずるが爲めのやうな事で知らず〱の内に取り返しの付かぬ惡弊を作りつゝあるのは眞に殘念である。酒毒の豫防は之等に大なる關係がある。

□文明諸國より遲れるな

飲酒問題に就て每年根本正氏は議會へ禁酒案を提出するが却々通過しないやうである。併し法律を以て禁止する事も必要であるが、家庭でも連關した子供に酒を進めぬやうにして欲しい。何うかすると正月やお祭には御神酒を出して、吞ぬ者でも御祝だから杯と無理矢理に進めて、一種の禮として居るのみならず、子供が顏を赤くしたり、跳ね廻つたりするのを面白がつてゐる親があるが、之杯は全く無識より來る恐るべき敎育であつて如斯にして飲酒の惡癖が養はれるのである。だから、何處迄も智識階級の人々は先達となつて酒の害を說き、飲酒を禁止するやう努めなければならぬ。故に法律を以て禁ずる一方家庭に於ても飯酒の風を矯める氣風が必要である。

斯樣に子供の時代から飲酒の害を說く方法として、各學校に於て小學時代の間に充分說き聞かせ其根本を築いて置く事が何よりである。然うすれば十年二十年後には必ず大なる効果のあるのは疑ひがない。米國では其意氣込みでやつて居るブライアン杯は十年の間に禁酒國にして了ふといふて居るが、日本でも列國と共に此風に立ちたいものである。若し日本のみが他の文明國の禁止の例を冷視して居るやうな事があれば、結局國と國との平和の戰にも干戈を交へるにしても敗れるのは必然の歸嚮である。

だから酒と結核花柳病とは之を何うしても撲滅せねばならない。然うでないと未來の國民の上に活動力が減損して國家は安泰の上に立つ事が能ないのは明らかであるから、其一の酒丈でも其害を貽さぬやうにして欲しいものである。

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

仁人何處にありや

三輪田高等女學校長　三輪田元道

□選擧權の賣買は當然なり

婦人の貞操問題に付て、公娼制度の害惡なる事は元より分り切つた事で、別に說明を要せぬ事である。私は少しく此事に付て調べて居りますが、今晚は別に先約があるので、委しくお話しすることは出來ない。故に唯結論だけをお話したいと思ふ。外國人であるストラウト女史より此問題に付てアドバイスされたが、かく簡單な問題であるに係はらず、之が解決をなすことの出來ないのは何の爲であるか、存娼論者の一部には『醜業婦の存在は日本ばかりではない、外國には公娼制度こそないが、之に類する者があつて、矢張害毒を流して居るではないか。若之を廢すとせば徽毒は如何にして其蔓延を防ぐべきか』と、云ふ事を主張し、之を彼等の論據の金城鐵壁として居るのである。かゝる瑣々たる論據の下に公娼制度を存せしめて居るのであるが、公娼制度を存せしむるの害は徽毒の害よりも甚だしいのである。其は此の公娼制度が一般の風紀を紊すことになるからである。先般の衆議院議員選擧に就て、選擧法違犯者が澤山檢擧せられた、其人員は萬を以て數ふる程に上つた。或人は議員選擧法の不備を論じたり議員制度を罪したりして居るが決して選擧法其物の罪でもなければ、議員其人の罪でもない。今の社會で選擧權を賣買する位は何でもない事である。選擧權よりももつと重大なる物、即ち人間の身體、婦人の貞操を賣買して、其を政府が公許して置くのである。貞操を賣買するのを宜しいとして許して置いて、其よりも甚だ瑣細な投票を金を出して買ふのに何の不都合があるか。投票は賣買してはならぬが貞操を賣買するのは宜しいと許して置く、こんな矛盾な話があるか。

□公娼制度は危險思想なり

近頃世間で危險思想と云ふ語を用ふる。誰かゞ議論をして居る時『それは危險思想ではないか』と云はれると大抵の人は僻易して終ふが、公娼制度は實に危險思想の養成である。先年哲學館事件と云ふ事が起つた。是は危險思想であると云つて喧しく喋がれた。哲學館事件とは、同館で何かの會があつた時、英國のクロムウエルを讃めた事が導機となつたのである。クロムウエルは『目的さへ善ければ手段は之を撰ばぬ』と云ふ主義である。哲學館事件が危險思想であるならば、公娼制度は猶危險思想である。如何となれば公娼制度は、目的

さへ善ければ手段は何でも善いと云ふ事に歸着するからである。卽ち黴毒は恐ろしい。之を防ぐと云ふ事は眞に善い事である。其の善い事をなす爲には貞操を賣買しようと、人身を奴隷にしようと構はぬと云ふ事になつて、クロムウエル事件よりも猶危險であると言はねばならぬ。若公娼を置かねば靑年の性慾を如何せんとするや、そして其に由つて黴毒の傳播を防ぐ爲には是非とも公娼でなければならぬと云ふので、黴毒と云ふ瑣細な黴菌を退治するが爲に貴い人間を犧牲に供するのは危險思想であるまいか。確に危險思想の實現した者である。斯かる論法で進んだならば、親孝行をしたいが、錢がないと云つて隣りの物を盜んでも惡いとは言はれない。友人に信義を盡す爲だと云つて他人の着物を默つて質に置いても惡いとは言はれなくなる。目的の爲に手段を擇ばぬと云ふ主義が危險ならば公娼制度は瑣細な目的を達するが爲に大なる犧牲を拂ふのであるから、確かに危險思相であると云はねばならぬ。

□宗教家教育家の力で能る

黴毒の蔓延を防ぎ、性慾を防ぐ爲には別に方法があると思ふ。其は學者醫者宗教家等の力を借りて、勞働者などの居る所に往つて、幻燈や活動寫眞などを用ひて、黴毒の害を說明し人々をして、其豫防に注意せしめさへすれば、病毒の蔓延は防げると思ふ。人間は强い樣でも弱い者である。ペストが流行する時、隣りにペストが出來たと言つたなら、どんな偉い人でも縮み上つて終ふ。黴毒の恐るべき狀況を說明し。且つ見せたならば大抵の人は恐れて終ふに違ひない。若し宗敎家の力で黴毒位の瑣々たる物の傳播を防ぐ事が出來ぬとするならば、こんな靑年會館の如き立派な大建物は要らぬ。寧ろ毀して待合でも始たが方がよからう。敎育家、私も敎育家の一人であるが、敎育家が敎育の力で靑年の性慾を防ぐことが出來ぬとすれば、敎育家は要らぬ。早速敎師をやめておでん屋でも始めた方がよい。故に黴毒の豫防も靑年の性慾問題も敎育家宗敎家などの力で解決が出來ると思ふ。されば性慾問題と黴毒問題とは公娼制度存在の理由とはならぬ。

□功利主義にも當篏らぬ

功利主義と云ふのは利己主義で、一種の方便であるとせられ、近世の倫理學上より見れば、是認せられた學說ではない公娼制度は此の功利主義にも叶つて居ない。黴毒を豫防すると云ふ點から公娼制度を設けたと云ふ事は一種の功利主義の樣にも見ゆるが、人間の貴重なる節操を其が爲に犧牲に供する事は、人間の節操と黴菌とを權衡にかけて、小なる黴菌の爲に大なる人間を犧牲にするので功利主義にも反對して居る昔德川時代に人柱と云ふ事があつた。長柄の橋は時々洪水の爲に流されるが、再び之を架設せんとする時其柱の下に生きた人間を埋め、其上に橋を立てる。之を人柱と云ふのであるさうすると其埋められた人の怨念で橋の杭は決して流失する事がないと云ふ一種の迷信から行つた者であるが、之は野蠻時代の、慘酷なる風習として今日の人は之を想像したばかりでも戰慄する。併し明治大正の文明時代に多くの人柱を立て

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

て居るのは奇怪な話ではあるまいか。吉原や洲崎の遊廓に往つて御覧なさい、多くの人柱が並んで居るのではないか。昔の人柱は宗教に背き、人道に背き一日も許す可からざる罪悪として之を罵倒するが、吉原や洲崎其他の遊廓では、橋の流失を防ぐよりも猶瑣細な黴菌を防ぐが爲に、貴い人間を一人のみならず。幾千幾萬人と云ふ程の人を犠牲にして居る。是が人柱でなくて何であるか。明治大正の時代に野蠻時代の人柱を公然許して存在せしむる事が不條理ではあるまいか。或人はそんな事は官吏のなすべき所で、吾等の關する所でないと云ふかも知れぬが、官吏や教育家の一部でも公娼制度は必要であるなどゝ云つて居るものもある世の中である。之を廢止する事は之を官吏の如き職業の人に任せて放任して置く譯にはいかぬ。如何なる人でも志士仁人なる人々の力に由つて之を一掃せねばならぬ。

□公娼は奴隷よりも慘なり

奴隷廢止は有名な事件で、其功に由つて大統領になつた人も澤山ある。之を廢止するが爲に身命を賭して爭つた宗教家もあつた。米國では大戰爭まで行つたのである。公娼制度は奴隷制度よりも猶害がある。或時一人の奴隷が或人から立派な衣服を貰つた。雨の降る日に其奴隷が外出するのを見たが其貰つた着物を包んで之を背負ひ、自身は赤裸で往來を歩いて居た。『なんでそんな事をするか』と、訊くと、此着物は人から私が貰つたので私自身の物であるから、大切にせねばならぬが、私の此身體は主人の物で私の物でないから粗末にしても善いと答へたと云ふ事である。是は實に可笑な話であるが、奴隷が自身の身體が自身の物でなく、全く主人の自由に任せてあると云ふ事は最も慘酷な事である。時の志士仁人はかゝる不都合なる制度は一日も存在せしむべき者でないと云つて蹶起して之を廢止したのである。公娼の着て居る着物は誰の物であるか、帳面上は自分の物になつて居るかも知れぬが、身體は誰の物となつて居るか、勿論娼妓自身の物にはなつて居るが、どんな厭な人にても身體を自由に弄されるのである。奴隷は唯身體を勞役に使用せらるゝのであるが、公娼の身體は卑むべき恥づべき行の爲に提供して置くのである。諸君の如き方々の中には遊廓に往く人はあるまい。遊廓に往かぬ人は娼妓がどんな事をしようと我關せず焉として居るが屢々往く人は自分の畠であるから之を保護する。私も遊廓へ其は研究の爲に覗いて見た事はあるが、彼等の状態は奴隷の其よりも一層慘刻な者であると思ふ。之を救ふ志士仁人はないか。其筋の人々に依頼してばかり居たならば百年黄河の清むを待つと同樣で決して望まれない。故に我々がお互に蹶起せねばならぬ事であると思ふ。

□何ぞ『お人々々』と叫ばざる

徳川時代には將軍の權威を現はさんが爲に、將軍が鷹狩の時に使ふ鷹に對し、人民に敬禮をさせた。ゲスレーの帽子に敬禮させたと同じであつた。そうして鷹が江戸の町を通行する時は『お鷹々々』と云つて通行人に注意を與へる。通行人は之を聽いて直ちに路を開くのみならず。道の兩側に頭を

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

下げて敬禮をするのである。若も此く敬禮をせぬ人があると忽ち逮捕せられて罪にせられる。或時例の如く將軍の鷹を持つた鷹匠が往來を『お鷹々々』と云つて通ると、或人がこちらから『お人々々』と言つて敬禮をしない人があつたと云ふ事である。德川時代に於てかくの如き事を言ふには生命を差出してかゝらねばならぬ。其人は果して刑に處せられたかどうかは知らぬが、德川時代には畜類でさへかく敬まはれたのであるに、今日では人間がお鷹よりも粗末な取扱を受けて居る者がある。公娼は實に籠の鳥と云ふが、其よりも猶殘酷な待遇を受けて居るのである。我々は彼等の爲に、何故に人として待遇せぬかを責め、公娼も『お人々々』と言ひたいのである。德川氏の『お鷹々々』を打破して志士仁人が明治の維新を造つた、今日の我々は此の殘酷なる公娼制度を打破して大正の代に一大革新の途を開かぬか。我々が功名手柄を顯はす場所は此處にあると思ふ。此問題の爲に終始奮鬪しつゝある矢島婦人に敬意を表する。諸君、何故に諸君は『お人々々』と叫んで彼等娼婦を救はぬか。諸君が一齊に力を同じくして蹶起するならば之を救ふに於て易々たるのみであると思ふ。

□當面第一の問題を解決せよ

公娼制度を存任せしめて置くのは、唯彼等を獸類の樣に取扱ふて居るから惡いと云ふのではない。其風紀上敎育上、社會のあらゆる方面に害を及ぼして居るので、此の問題は娼婦其者に對する問題でなく實に國民の問題である。されば之を存在せしめて置くに付ては政府及び政治家の責任のみではない。宗教家も教育家も共に責任を負はねばならぬ。然るに學者の中でも、下層の社會には性慾を要求する人がある。之を防止せねば娼婦を廢止することが出來ない。如何にしたらよからう』など、頭を惱ませる者もあり。政治家などの餘り分らぬ人になると、選擧や何かの時なぞの爲に選擧民の機嫌を取り置くの必要があると思つて『土地の繁榮となるから此土地にも遊廓を設けたらどうだ僕が許可される樣に周旋してやる』なぞ言ふたり、或は實地に計畫したりする者もある。我等はこんな事を言ふて居る間に其害は滔々として海外にまで及ぼし、到る所に日本人の面目を毀損しつゝある醜業婦を見るに至り。外國人から雄辯滔々として、其改革を忠告せらるゝ樣になつたので、此問題は今や日本國民の問題に非ずして實に人道上の世界の問題となつて居るのである。又中には遊廓は之を廢止するもよいが、其後にはどうするかと云ふ人もあるが、廢止さへすれば其後はどうでもなる。若人がなければ私一人にても出來ると思ふ。單に私ばかりではない。宗教家もあれば學者もある。之を解決するのは造作もない事である。要するに遊廓を廢止するは第一の問題で、廢止後の黴毒問題は第二の問題である。第二の害毒を恐るゝが爲に其よりも甚だしい第一の害毒の廢止に躊躇すると云ふ事はない。其害あることを知つたなら直ぐ廢止するがよい、そして第二の害はどうするか其は其後に研究すべきであらう。先第一當面の問題を直に解決すれば第二の問題は之をお樂しみに取つて置いても宜からうと思ふ。世には是等の害毒を我々國民の爲に人道の爲に掃ひ除く仁人はなきか。（廓清會講演）

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

淨瑠璃の男女道德（四）

□お初德兵衛曾根崎心中□□

一條忠衛

この淨瑠璃は近松門左衛門の作であつて、日本の淨瑠璃の中でも第一位に列する方である。

德兵衛の主人と云ふのは現在の伯父であつた。德兵衛は正直なので主人から色色な親切にあづかり、信用を受けてゐた主人は妻の姪に二貫目の持參金を附けて德兵衛と夫婦にして貰ひをさせる積になり、在所に住んで居る德兵衛の繼母と談合まで濟んで、繼母は二貫目の銀を請け取り、押して祝言させると云ふことになつた。然るに德兵衛には既にお初と云ふ戀人があつて、夫婦を契つて居た。いま伯父と繼母の企を聞いて驚き、大に不服を唱へた。假令死んだ父親が生きて來て命令するとも嫌で御座ると云つて反對した。伯父は立腹してお前は天滿屋のお初めとやらにくさり合つて女房が姪を嫌ふのか、よい此上はもう娘はやらぬ遣らぬから銀二貫目を立て、四月七日までに返せ而して二度と此の大阪の地は踏ませぬと云つて怒る。德兵衛は男の我として畏つたといつて在所へ走る。方々を金策して走いても出來ない。繼母は素より握つた金を放す女では無かつた。德兵衛は自棄になつたまゝ西國三十三箇所へ巡禮に出掛ける。丁度三十三番を濟まして大阪の天滿屋に立寄りお初と久しぶりて會ふ。お初は音信の無かつたことを恨み、德兵衛は一伍一什を答へる。そこへ花見歸りの九平次が通りかゝる。曾て二貫目の銀を貸して難儀を救つて遣つた事のある親友である。自分の目下の難儀を告げて懷から證文を出して相談すると、九平次はそんな事は知らぬと云つてしらばつくれ、反つて德兵衛を證文僞造の罪に問はんさした。二人の間に大立廻りを生じ、互に擲り合ふ。お初は泣きながら其邊をうろたへ廻る。德兵衛は一人なのに九平次は五人連なので、踏まれ毆られて散々な目に遭はされて歸る。お初は今日のことのみ氣にかゝり、皆な自分から出たことであると思つて、しく／＼泣いて居る所へ、同輩が遣つて來て『なう初樣何も聞かんせぬが、德樣は何やら譯の惡い事が有つて、たんと擲たれさんしたさ聞いたが眞か』と云ふもあり『イヤ私が客樣の話ちやが、踏まれて死なんしたげな』と云ふもあり『騙りを云ふて縛られての、僞判して括られての』と碌な事は一つも言はない。夜に入つて德兵衛は編笠で忍び入り、お初に逢つて、四方八方行き詰つて迚も生きて居れないから覺悟を極めたと云ふ。お初も『德樣に離れて

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

片時も生きてゐやうが、何うぞ德樣私も一緒に死ぬるぞやいの」とあつて、二人は此の家を脱走して、風しん／＼たる曾根崎の森に行くのである。

□　□　□　□

德兵衞が自殺を決した動機は極めて明かである。彼が一身の處置に於て四方八方行き詰つて、社會に生存する價値を失つたと解釋したが爲めである。そしてさう解するに至つた原因は、(一)伯父繼母の婚姻干渉、(二)金策の失敗、(三)大阪立退であつた。彼れは現在伯父である主人の内儀の姪と結婚しない爲めの義理が立たない所へ、金策の失敗からして重ねて主人に對して義理が立たず、迚も大阪の地に居れなくなつたので、隨つてお初とも別れなければならぬことを悲觀した結果である。德兵衞は大阪と云ふ社會に居て、お初とも夫婦になり、伯父繼母との關係をも圓滿にして、商賈でもして行きたいのが道德的理想であつたが、其れがからりと毀つた爲めに、大阪の社會に生きて居て道德的生活をなす手段を失つたのである。自己の處して居る社會で道德的生活の手段を失へば、自己の人生は無意義になり、無價値になることは當然なことである。

此の場合にその不平不滿苦痛から脱せんが爲めに自殺を思ひ出すはこれ亦た自然の人情であらう。自殺は如何なる場合でも、縦令戰場で捕虜になる場合でも、陛下の崩御した場合でも、新道德から見て罪惡であるが、社會的壓迫の爲めに自己の人生の苦痛から逃れんが爲めに自殺するに至るは自然の成行であつて、個人の罪で無く、社會の罪であると申さねばならぬ。德兵衞の道德的生活を無意義に陷れた根本的原因は實に伯父繼母の婚姻干渉であつた。殊に繼母たる者が實母と同然に繼子に對して親權を有し、婚姻の取極や持參金の處分まで左右して、絶對の權を有して居た當時の家族道德の如何に人殺であつたかに驚かざるを得ない斯かる人殺な道德を社會の風上に立て〻置いて、單に德兵衞の自殺決意のみを詰るは誤つて居る。大正の今日に於ても、繼母が親權を振り廻して繼子の婚姻を家族道德上から左右し活殺して居ることは尤も明かな事實であつて、民法第八百七十八條(繼父繼母の親權に對する制限)なざは遺憾ながら紙面を飾る空文に歸して居る。伯父までが甥の婚姻に干渉して、發言權を有して居た親族道德の如何に無茶であり、亂暴であり、壓制であつたかに憮然たらざるを得ない。父も母もない正直一天の德兵衞は此等の社會的壓迫に堪えずして、自殺を極め込んだのは實に不愍の身の上であつた。お初は德兵衞とは偕老同穴を契つた女である。天の許した夫婦であるからには、貞女兩夫に見えぬは勿論、夫の自害しなければならぬ薄幸の事情を聞いては、身も世もあられず片時も生きて居れぬも道理である。心中は自然の赴く所であつた。

□　□　□　□

二人の心中道行は近松が最得意の筆法で書かれ流暢婉轉として悲哀の極をつくし、息も吐かれぬ妙味がある。世話淨瑠璃が心中の教科書であると譏られるのは殊にこの曾根崎心中の道行の如きに對してゞある。けれども人殺な當時の家族道德の上から兩人の身の上を正解すれば、彼等の心中は當然の結果であつたから、その道行の悲哀に對しては同情しなければならない。心中は男女道德に關しての

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

社會病的現象であるから、素より理想には成らない、けれども心中してまで一男一女の和合を裏切らない人格的努力に對しては尊敬しなければならない。一たび契つた戀人を棄て、親や親戚の要求におめ〳〵と順つて愛さぬ異性に身を賣る輩に優ること千萬である。こゝに心中道行の前段と後段とを摘載して、近松の謂ゆる戀の手本なるものを讀んで、終りに批評するとしよう。

「此世の名殘夜も名殘、死にゝ行く身を譬ふれば仇しが原の道の霜、一足づゝに消えて行く、夢の夢こそ哀なれ。あれ數ふれば曉の、七つの時が六つなりて、殘る一つが今世の、鐘の響の聞きおさめ、寂滅爲樂と響くなり。鐘ばかりかは草も木も、空も名殘と見上ぐれば、くも心なき水の音、北斗は冴えて影うつる、星の妹脊の銀河、梅田の橋を鵲の、橋と契りていつまでも、我とそなたは女夫星、必ず添うと縋り寄り、二人が中に降る涙、川の水嵩も增るべし。（中略）

涙の絲の結びまつ。棕櫚の一木の相生を、連理の契りに擬へ、露の浮身の置き所「サア愛に極めん」と、上着の帶を德兵衞も、初も涙の染小袖、脫いでかけたる棕櫚の葉の、其玉はゝき今ぞ實に浮世の塵を拂ふらん。初が袖より剃刀出し「若も道にて追手のかゝり、剃れわれになるとても、浮名は捨てじと心がけ、剃刀用意致せしが、望みの通り一處で死ぬる、此嬉しさ」と云ひければ「オ、神妙頼もしゝ。左程に心落つくからは、最期も案ずる事は無し。さりながら臨終の時の苦患にて死姿見苦しと云はれんも口惜しゝ。此兩本の連理の木に、身體をきつと結びつけ、潔よう死ぬまいか。世に類なき死樣の手本とならん如何にも」とあさましや淺黄染、かゝれとてやは抱へ帶、兩方へ引きはりて、剃刀取つてさら〳〵と「帶はさけても主さまと私が間はよも裂けじ」と、どうど座をくみ二重三重搖がぬ樣に確つかと締め「能う締つたか」「オ、締めました」と、女は夫の姿を見、男は女の體を見て「こは情なき身の果てぞや」と、わつと泣き入るばかりなり。「あゝ歎かじと德兵衞、顏振り上げて手を合はせ「我れ幼少にて實の父母に離れ、伯父と云ひ親方の苦勞となりて人となり、恩も送らず此儘に、亡き跡までも兎や角と、御難儀かけん勿體なや、罪を免して下されかし。冥土にまします父母には追つて御目に懸るべし迎へ給へ。」と泣きければ、お初も同じく手を合はせ「こな樣は羨ましや、冥土の親御に逢はんとある。妾はが父樣母樣は、息災で此世の人なれば、いつ逢ふ事の有るべきぞ。便りは此春聞いたれど、逢ふたは去年の初秋の、初が心中取沙汰の、明日は在所へ聞こえなば、如何ばかりかは歎きをかけん。親達へも兄弟へも、是から此世の暇乞。切て心が通じなば、夢にも見えてくれよかし。懷かしの母樣や、名殘惜しの父樣や」と、しやくりあげ〳〵聲も惜しまず泣きければ、夫もわつと叫びいり、流涕憧るゝ心意氣、理りせめて哀なれ。「いつまで云ふも詮もなし。早や〳〵殺して〳〵」と最後を急げば、「心得たり」と、脇差するりと拔き放し「サア唯今ぞ南無阿彌陀〳〵」と云へども流石此年月、「いとし可愛と締めて寢し肌に刄が當てられうか」と、眼も眩み手も慄ひ、弱る心を引直し、引直しても猶慄ひ、突くとはすれど切先は彼方へはづれ此方へそれ、二三度ひらめく劍の刄。あつと許に喉笛を、ぐつととほるが南無阿彌陀〳〵。南無阿彌陀佛と繰とほし刳りとほす腕先も、弱るを見れば兩手を伸べ、斷末魔の四苦八苦、哀と云ふも餘りあり。「我とても遲れうか。息は一度に引き取らん」と剃刀取つて、喉に突立て、柄も折れよ刄も碎けと、刳りくり〳〵目も眩き、苦む息も曉の、知死期につれて絕え果てたり。誰が告ぐるとは曾根崎の森の、下風に聞こえ、取傳へ、貴賤群聚の廻向の種、未來成佛疑ひなき、戀の手本となりにけり。」

□　□　□　□

此の心中道行を讀んで多くの青年男女は戀の美と心中の美に醉はされることは明かである。けれども狂人でない限りは醉はされたからと云つて、俺も一つ心中して見ようなどゝ出掛ける命知らずな馬鹿者は無いであらう。心中しようとする厭世的意識に達するには、其れ相應の境遇的原因が無ければならない。その原因は實に社會的に存して居る。男女道德の生活に關して、一方に幾らか個人道德の存する社會に於て、一方に家族主義道德に伴ふ婚姻干涉から生ずる社會的壓迫がそれである。心中は主として壓迫から生ずるのである。支那にも西洋にも、又は上古中世の日本にも無いのが、此所に理由

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

を有するのである。それで心中は個人道徳と家族道徳との葛藤から生ずる現象である。何となれば徳川時代から明治大正の今日までを通じて、上流の社會は國家の政治に近づく折が多く、自ら文敎學府の影響を受けて居ることが大であるから政府で拵へた家族主義道徳に固つて居て個人道徳の分子を餘り有して居ない。然るに中流下流は國家の政治に緣が遠く文敎學府の影響を受ける度が少ないから、政府で拵へた家族主義道徳が徹底的に行はれず、隨つて人性の自然に發した個人道徳を多く有して居る。青年男女の自由交際は上流に無く、中流から下流に掛けて益々多いのはその唯一の證明である。青年男女の開放は中流から下流の社會の特許であつて、上流の社會は見ることが出來ない。隨つて上流の社會は家と家と親と親とが子の婚姻を獨斷して子はこれに柔順であるから、男女七歳にして席を同うせざるは勿論、戀愛と云ふことも無く、心中と云ふ現象も無い譯である。然るに中流から下流の社會は一方に於て家と家と親と親とが子の婚姻を獨斷しようとするし、又一方に於て子は子同志で男女の交際でも戀愛でもして居るから、此の二つの潮流に渦卷かれて道徳的難船に遇へば、義理の暗礁に打ち上げられて、脆くも心中の社會的現象を呈するのである元祿以後に於て農工商の民はこの心中が多く、殊に男女交際の機會の多い都市に多かつたのも其理由から來るのである明治大正の今日に於ても此の道理には變りが無く、心中は中流から下流に掛けて多く、田舍よりも都市に多いのである。それで心中を日本の社會から根絶するには、個人主義の道徳に從ふか、家族主義の道徳に徹底するか、又は兩者の區別を轍した人格主義の統一道徳に從ふかに據らなければならない。家族主義道徳に立脚して個人主義道徳と折衷して居ながら子の結婚を家と家と親と親とで取り極め男女の自由交際も戀愛も公認しないと云ふのは、極めて素朴的無批判的な道徳であり、實に詛ふて餘りある道徳である。

曾根崎心中の道行は如上の矛盾道徳を德川時代が社會に敷いて、青年男女を死の淵に追ひ込んだ道中記である、お初德兵衛が世に類なき死樣の手本にならんとしたのも、道理のあることであつた。

矢島先生の靴

婦人矯風會頭にして本會副會長たる矢島楫子先生は本年八十五歳の高齢でありながら尚矍鑠として、去月は大阪の林歌子女史と共に、山陽九州にかけて十五回の演説會に出席せられた。別項に掲げた二首の歌は此の道すがらの感想であつて、林女史之に和して先生を勵まして居られる。私は先生が林女史と御歸京になるとすぐ矯風會にお尋ねしたが、大して御疲勞の樣にもなく、あの短册に筆を取つて書いて下すつた。而も此お年で眼鏡も用ひず、手觸りでお書きになるのださうであるが、達筆は實に恐れ入つたものである。

矢島先生が下駄を用ひず靴をお穿きになるには面白い話がある。先生が四十の時東京に出て來て、まだ赤毛布の頃である。或日雨が降つたのでハイカラの積りで當時流行の今から云へばコートの樣なものを着て足駄を履いて、蛇の目の傘を指して、得々と櫻田御門前を歩いてゐた處、どうしたハヅミか泥濘の中に轉んで了つた。起き上らうとするが變なコートの樣なものが膝の處を掴つてゐるので容易に起き上られない。辛つとの事で起き上つたがさて考へて見ると實に馬鹿々々しい、泥の中に倒れて起き上れない樣な着物を着たり履物を履いたりしなくつてならぬ理由がない。と考へてそれから其の妙なコートも止め、下駄は早速下足屋に行つて、俎板の樣な晴雨兼用に用ひらるゝ大きな巾廣の物を特別に注文して履き、何處へ行つても此の下駄を玄關で見れば、ハヽア矢島さんが來てゐるなと人が思ふ樣になつた。其後靴といふ便利なものが來たので、靴に代へたとの事。先生の氣象が表はれて居て面白い。

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

誤れる貞操觀念

福井壽郎

廓清第六月號を讀むで、卷頭に書かれた伊藤先生の御言葉を非常に嬉しく思つた。而して頁を繰り返して「編輯の後」を讀むに至り

◘凍死か貞操かと云ふのを ＝論じ北米のフローレンス孃◘

の貞操を美德なりと褒賛せられたる角雅堂先生の一文を閲讀せし時其處に何物かの疼きを自身から聞いたのである。

貞操か凍死か、以前より私は胸に抱いて居たこの貞操の眞意は何所にあるかと云ふ疑問は、先生の御說を拜見するに到つて尙更らに深き霧の中に包み込まれてしまつたかの感がある。此れ私が拙文を綴つて先生並に幾多先輩の御指導を迎がんと欲する次第である。立派な許嫁の間柄で御互に手を携へて緣陸に散策して前途の光明に醉ひ、靜夜月明の淸きに相抱いて前途の幸福を希ふことを社會一般に許され乍ら、偶さして其相互が死に瀕し危難將に身に迫つた刹那に於ても、若き許嫁が御互に助けることを世間は許さないものであらうか、女と云ふものは些々たる浮世の毀譽褒貶に拘泥して、無價値なる死せる美名を求めんが爲めに、終夜相抱いて眠れば助かり得べきものなるにも拘らず進んで身を殺して迄も尙處女の證しを立てなければ世間は許さないものであらうか、馬車の中に夫たるべき人と一夜身に纏へる衣を脫いて溫を取り死を免れたならば人或は彼の女、並に夫たるべき男を疑はん。されど疑は眞實ではない、疑はいつかは晴れる、死せるが故に處女たるを稱贊せられたる、彼孃を私は惡口を云ひたくはない、併し乍ら私は彼女の狹い融通の利がない修養を不憫に思はざるを得ない。彼女が貞操に對する理想を今少しく徹底したりせば、凍死の憂目に遭はずして若い二人は互に抱き合つて其の美はしき天命を完ふし得たのであらう。若し世間の男は如斯女に死を強ひることを貞操の根本義でありとすればそれはあまりに我儘である。貞操を守るが爲めには時として死は必要である。

◘死を賭してまでも女が身を ＝守る美德は私と雖も賞讚する◘

に吝ないけれ共、死すべきに時あり、場所あり、定見がなければそれは犬死である。徒勞の死である、時も所も擇ばず相手も考へずに死ぬことが貞操であるならば殆んど論ずるの必要がない。私の考へでは貞操とは彼孃の如き莫迦々々しい他人行儀なものではない。若し孃が俯仰天地に恥ぢざれば九死の場合加も許嫁の男性と共に相抱いて暖を取るべきが正當であらう。貞操は世人に媚ぶるにあらずして自己の精神の滿足、心の悅樂でなければならない。他人の目に映ずる所にあらずして自己の精神を飾る天の教へでなければならない若し冷瀧玉の如き精神を抱いて居れば未知の男性と相抱いて眠つても宜いではないか。

再び云ふ、フローレンス孃の死屍に鞭ちたくはないが、彼の女の精神は既に々々

◘性慾の衝動に曇つて居つた＝ ＝故に僅かに其衝動を死して◘

抑へ得たかの感がある、彼女が若し美はしく淸き身心共に處女なりしならんには彼の女は死ななかつたであらう、彼女は實に退嬰的な無定見な只の女に過ぎないではないか。然らば貞操の眞意何處にありや？固より私には六ケ敷とは解らない。然し女なり男なりが自己の靈と肉とを定まつたる人に捧げて他に決して心を許へさぬことを云ふのではあるまいか。男女相互の自覺そこに貞操の根本義がある。女も男も相互に親睦し相互の人格を尊重して信實でなければならない。男や女は遊戲的なふざけ合つた分子を捨てゝしまつてもつと〱眞面目なそして徹底した思想を以て人生の奧底に秘された眞理に進まなければ決して人の世の進步は來らないのである。

◘虛僞を捨てゝ信實に入る時＝ ＝其處に人の世は理想の樂園◘

と化するのである。人は靈のみに生きることは生物として出來なければ、又肉のみに生きては尙更ら禽獸と墮し終る。此所に於てか靈肉合流の思想に立脚する吾人の理想の根柢はある。靈かあらず、肉かあらず、吾

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

人の稱する貞操なるものは此の二點に根柢ある確乎なる人間の生命でなければならないものである。彼の神聖な戀など稱して肉の存在を認めない戀、それは未だ目の覺めぬ、お若いお若いローマンチックの少年の寢言であり。威ありて猛からず柔にして剛死あり實あるが純粋の人の意氣だとすれば靈あり肉あるが人の眞理でなければならぬ。內に血に燃ゆる性艷なる肉を抱いて尙禮義あり、秩序あり、靈魂ある男女の行動、それが人生の全きである。此所に到達すれば殊更取りたてゝ貞操を守れと強要しなくとも貞操は吾人の自然の行動に出づるのである。世の人よ純潔なれ!!。とは吾人の幾度も口にした所である、さり乍ら私の云ふ純潔は死ぬ迄童貞處女たれと云ふのではない。そは男女相互が確固たる心念の下になる結合それでなければ人の世の純化無化はのぞみ得られない、野合に非ず押つけ結婚にあらず、洗練せられたる兩親並に相互の徹底せる理會の下に成就する結婚それを吾人は今日の青年の正に進むべき道であると思ふ。これ前の男女の純潔を云ひ然も理智に走らず情緒に係らざる眞の貞操が湧き出づると云ふ所以である。所謂社會論者は

▣貞操よりも性慾を重視し文明＝の漸進より生活難に論及し▣

賣春婦の增加と其の必要を說くに至る。然り人間の動物慾を肯定する以上、論理或は此所に到るの餘儀なからん。さり乍ら社會は動物慾ある男女の結合なり。加かも或る者は崇高なる生を送り或るものは其の薄弱、其の卑屈動物慾の奴隸となる。吾人の品性は洗練せられて高調す、然るを社會論者の或る者此所に眼を轉ぜずして動物慾の肯定にのみ急なるは實に不愉快の極である。生活難あり優勝劣敗の世に於て晚婚又免れ難しとすれば、未婚者の性慾の便所を設けてその性慾を洩らさしむべき個所の要ありとは吾人は認め得ざる處である。未婚なれば婚する迄童貞たれ、處女たれ、夫れが即ち男女共に婚姻に對する大なる社會義務と云ふ。此社會義務を果し得ざる未婚の壯年者が自己の天分を盡さずして不義の子を造り困果の子を宿さんとするは一體何事ぞ。

而して社會學者稍もすればそれを見て致し方なしとするのである。

▣此種の似非社會學者の＝蔓る現世は誠に禍なる哉▣

吾人は筆を擱くに當つて云ひたいことがある。それはフローレンス孃と相似たる所爲である。昔支那に若い男が雪の降る朝、一人で家に蟄居してゐた。偶々年若い女が其の男の家の門に通りかゝった際女は寒さに堪え切れずして凍えて雪の中に倒れた。男は此有樣を目擊して之を助けんとした。然し門の中は自分一人倒れた女は妙齡の婦人、男は竟に彼の女を助けることをしなかった。女は到頭死んだ。若し此場合門の中に二人以下の男が居たならば女は助けられたであらうのに………。恰度フローレンス孃の話と好個の一對ではないか。彼れは女、これは男彼れは心既に色情を思ふてキリストに離れ此れは男女七才にして席を同じうせずの議論を橫に走ったのだ。何れも私に云はしむればあまり褒められた話ではないと思ふ。貞操とは人の主觀によりて定まる其の主觀社會道德を察して眞理なるとき人は全いのである。主觀完ければ神知ろし召す、人に誇らんが爲め

▣人前を飾るが爲めでなく＝千萬人と雖も我れ行くの▣

強き貞操は心の湧く。些々たる人の口の端に上る虛僞や嘲笑を恐れる必要はなくなるぢやないか。終に眞實の貞操は女々しい淚ではない。嫉妬ではない、和氣靄々たる春の霞である。超然たると共に全てに接し然も時ありて美はしく退散するの雄大があらればならぬ（六、六、二三）

角雅堂曰く「福井氏のフローレンス孃の貞操觀は甚だ御尤の見解だと思ふ。御叱責を蒙って恐縮致しました。唯私は餘りにウヰルソン君の心を臆測して犯罪學的に推究し過ぎてウヰルソンが肉慾の衝動を感じて同衾を迫ったものと解したのでした。爲めに彼の孃は死を覺悟して自分の貞操の全きを計り同衾を避けむとする一念は憐れ凍死したのである、實に彼れとしては豫期せない最後であった。未婚者の氏の所謂婚姻に對する大なる社會義務を果さんとする純潔なる精神の發露で寧ろ彼の死に一掬の淚を注ぐに價すると考へたのでした。卽ち觀察の仕方に於て全然異った道を走ったので、變った結論に到着したと思ひます。此上とも御鞭韃御指導を祈る。

會員諸君は「編輯の後」の樣な簡單なものですらも能く御注意下さいまして御讀み下さることは感謝の念に堪へません。他の會員諸君に於かれましても、本誌上で發表する記事抔に付て御意見があり、亦本會の事業に就て關する事でいろ／＼御考へになられてる御方はドシ／＼忌憚なく本誌を通じて御發表下さい。

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

廓清春秋

河合北洲

聲

聲なきに聲あり。耳ありて聞ふるもの聞くべしとは、これ何の聲ぞや、人生常に此聲に惱まさる、惱まさるゝは外なる聲に非ずして内なる聲なれば也。

情慾の叫びは肉の聲也。良心の囁きは靈の聲也。肉の聲は本我に非ざる乎。靈の聲は本我に非ざる乎。均しく本我に非ざるなしと雖も、滅ぼすもの、滅ぶるもの肉我に在り、活かすもの、活くるもの靈我に在り、肉我靈我雜然として主權を爭ふ、理性の判官は其取捨に迷ふて、人生百歳、常に誤判の囹圄に呻吟す。

肉我の叫びは猛虎の嘯き也。本能に自乘する狂熱を醸して曰く、パンよ、成金よ、享樂よ、好色よ、名聞よ、利達よと。而して耳高き兎耳は勃然として其聲に奔る。見よ、巷に走るもの、如何に其耳の鋭く、其眼の血走りつゝあるやを、彼等は狂奔して得意失意の網中に投じ來る。然も張られし蜘蛛の網はこれ煩悶の自繩界にして、自己惱殺の墓地たるを知らざる也。

靈我の囁きは溪流の咽ぶに似たり、猛虎一聲、餓えたる肉我の鼻息に吼えて、陰森の氣自他を襲ふの悽愴裡に潺湲たる良心の泉流は殘月を湛えて嗚咽するものあり。克己の神韻、獻身の悲曲に無限の情緒を彈ずれば、斷續たる情緒に哀惜の紐は斷たれて、小我の衣を脫し、大我の天姿に躍るもの、共鳴の快絕に堪えざらんとす。

靈我の囁きは決して小なるに非ず、惟肉我の嘯くや大なるがため也。利害得喪の濁音を張上げ、自己中心より自己消滅に至る、心短き自暴自棄の悲鳴を絞る人生の弱きはこゝに在り、然かも南風は競はずとも、自重自愛の靈我に、正邪曲直の判決あり、神と人とに徹底すべき高

お伽噺しの眞髓

漸々世の中が進んで來ると何事でも徹底しないと滿足が出來なくなつて來る。だから今迄これは昔から傳つた噺しで、今の人達には判るものぢやないといふやうな、其麼暢氣な事では何うしても承知が出來ない。其處に今と昔の人の頭の相違がある。これは社會の進歩の然らしむる處で、物事が凡て證明し得られないものは、如何に偉さうな事でも一文の價値のないものとして捨てられて了ふ。昔から傳つた「桃太郎の鬼ケ島征伐」の御噺しも矢張り其類で、現在では漸く世間から忘れられるやうな傾きがある。併し此御噺しが眞實何等の意味も含まれて居ず、只徒らに子供の好奇心を唆る意味に於て珍重された者だと解釋する人逹の考へるやうなものであつたら、それは實際上一文の價値もない取るに足らぬものであると云へやう。が此噺しを熟く玩味して見ると滿更無意味ではない。實は意味深遠であつて、遍く男の一生を通ずる一大教訓なのである。記者も三つ頃から此噺しを親達から聞かされたものだが、漸々物事を理解するやうになると、何うも桃太郎の生立から征伐の前後の有樣が腑に落ちないので、之は所謂小供騙の御噺しとして何等の意味も價値もないものとして省みなかつた。

「昔々ある處にお爺さんとお婆さんとがあつたとさ」

此は凡て噺しの冒頭に使はれるもので所謂語出しである。昔々は枕詞で、ある處と云つて僅々漠然とさせた處に作者の活きがある。若し之が東京とか大阪とか乃至は京都と云つたならば此噺しは一つの地方噺しに

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

音の耳語は、當さに宇宙のエーテルに、最長時間、最大空間の餘音を擴むるものあるべし、人生此聲なき、聲を聽取する耳に非ざれば、未だ以て耳あるを言ふに足らざる也。

戰

人生は肢體の武器を振つて、戰はんか爲に死活の戰場に生まる。而して如何に死すべく戰ひつゝある也。優勝劣敗も、自然淘汰も、適種生存も、畢竟、此戰況報告に外ならざる也。

人生の自然と戰ふは、生活を得るの術也。人智と戰ふは生活に處するの道也。而して自己、自己と戰ふは生活を決するの法也。

戰の最も痛絶慘絶なるは、自己、自己に迫るの接戰也。三年の歐洲戰何かある一刻より一生に亘るの長期戰に非ずや。悲慘の歐洲戰何かある、双互の擒縱より兩虎相立たざるの白兵戰に非ずや。而して戰後戰時の經營を吹々するもの、何ぞ顧みて自己心中の經營難に泣かざるや。

我爲さんと欲するの善は爲さずして、却て爲す可らざるの惡を爲す、何等の悲慘ぞや。これ自己內應の自己陷落也。四面の誘惑戰には不意の伏兵に捕はれ。一目散の突貫には不測の塹壕に陷り、正々堂々の決戰も常に最後の五分間に破る。而して吹來る妥協平和の軟風に、人生と戰爭との眞意義を蒸散して乾燥し去りたる骨と皮に鐵面皮の恥を曝さんとす、憐むべきは人生ならずや。

天國を遠しと云ふ勿れ、昇る一歩は則光明の天國也。地獄を遙かなりと云ふ勿れ、降る一歩は則暗黑の地獄也、人生は自我戰の一勝一敗に依りて、日々此兩端に往來す、往來するもの甚可也、一階墮し來りて百階の下、天日を見ざるの深淵に沈むも一心也。一階昇り去りて十階の上、向上の聖座に達するも亦一心也。心身を獻げし楠公の討死、戰勝の金鵄にして、ソクラテースの毒死も亦榮光の勝利也。十字架上に手足を伸ばしたる人の子に至ては、我何の辭を以て其戰勝を賛すべきやを知らず、唯仰ぐべき神人の今尚ほ戰勝を叫びて、懦夫を起たしめつゝあるを知るのみ也。

一騎打の戰は、組織的の戰となれり、訓練せる團隊、精鋭なる武器、豐富なる

なつて了つて、世の中の一般に對して融通が利かなくなる。其處である處と云つたのである。お爺さんとお婆さんは、矢張り其意味で男と女と謂つては何だか徹底しないため然うしたので「お爺さんは山に柴刈に行つて、お婆さんは川に洗濯に行つた」之は父の親の恩は山よりも高く、母の惠みは海よりも深しといふ處から、お爺さんは山にと結付けお婆さんは川にと當嵌めたのである。それならば海に行くのが當然ではないかと云ふ人もあらう。けれども豈夫に海へ女が洗濯にも行けまいし、元來が我國は到る處に川があつて女は殊に水に緣がある處から、川に洗濯に行つたとなぞらへたのである。「大きな桃が流れて來て、佛樣の前に獻げて其翌朝お婆さんが桃を割つたら、其中から丸々と肥つた可愛らしい赤兒が出た」此意味を解釋すると、少しく猥褻に觸れ易いから詳く說明する譯には行かぬが要するに桃が流れて來たのは全くの噓で、佛樣の前に桃を獻げたといふのは、之は性慾の眞正を說いたものである。お婆さんが桃を割つたのは附會で其實お產をしたといふ事を綺麗に云つた者で「大きくなると日本一の黍團子を持つて犬と猿と雉子を引連れて鬼ケ島へ征伐に出掛けた」日本一の黍團子といふのは、兎角人間は傲りたがる者だから、人間の一番粗食とする黍團子を日本一の美食させよといふので、次に三疋の伴は犬は三日飼はれた家を忘れずといふ恩義のあるもの、猿は智惠のあるもの、雉子は勇氣に富むもので、都合恩と智と勇の三つを備へて鬼ケ島へ鬼の征伐といふのは、世間でよく他人を鬼といふ處から他人の處へ奉公する事を云つたもので「鬼を征伐して寶物を取りお爺さんやお婆さんを一生安樂に暮させたとサ」で他人を征服し、莫大な金を收めて故鄉に歸つたといふ。（暦）

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

糧食、熱烈なる後援は、神識、超凡の主將と相俟つて、戰勝第一の條件たらんとす。知らず、帝國、新戰士の靈我に此必勝的準備ありや否や。

信

一切なる智識の終にして、一切なる靈識の始まる所、之を聯接する無線電信を信仰となす、信仰とは天の靈能を地に下すの導力線也。

　靈能の力地に萠ふれば、靈智に發芽し生長し、開花し、結實すべき向上の樹木となり、燃えて腐爛の臭肉を燒盡すれば寒極寒の情意を暖め、暗黒暗の人道を照破するの靈火となる、力の土着なるもの靈我の安堵活躍すべき、而して生々の活氣を養成すべき郷土となり、地底の一土塊、罪惡の一俗魂も盡く發見せられ、淘冶せられ、鍛錬せられて、琢磨せられて光輝燦然たる煉金となり。煉金注ぎ來りて混々たり、清々たる不斷の靈水が、日々の洗禮、時々の永生權を與ふるに至ては、眞に不盡の活泉たらざるべからず信仰とは靈界の木火土金水を創造する原動力にして此無電に生々の秘機に潜在す

　信仰の靈能、一たび無心の聖愛に、祈禱の口を開けば、小我直ちに大我に接し有限直ちに無限に抱合す、聖愛は同化の生命なれば也。同化の生命、實行の手足に働き、熱情の口唇に燃えなば、病めるものは癒され、苦しめるものは慰められ汚れしものは聖められ、曲れるものは正され、迷へるものは導かれ、死せるものも亦復活す、これ人我の手足も口唇も、既に神我の靈管となりて、神の愛、神の力に溢るゝもの、人生と宇宙に注がれざる能はざるものあれば也。

　弱き人生よ、冀くば靈管を疏通する保羅の如く、基督の如くまよはずとも、折れたる葦にも尚聖靈を滿たさば、以て自他の骨髓に、正義の洪水、眞善美の雨露を注射し得ん時也。

種の話

人の心も何となく陰氣勝ちな梅雨期の昨日今日、下谷淺草方面へ掛けて一帶に何處の音曲教授所も時ならぬ大入滿員の盛況を見せてゐる▲歐洲戰亂の結果一躍して成金になつた家族の妻子連杯が、急に座食する身の退屈凌ぎに稽古するやうなお人柄でもなさ相だし▲と云つて亦物好の令孃連でもないので熟々探つて見ると其處には種々の肝膽が伏藏して居る▲夫れは斯うだ。昨年大英斷で遣つて除けた魔屈征伐も、御本尊樣の丸山氏が洋行する間もなく、何うやら雲行がガラりと變つて大正藝妓を再び認可する事になつた▲それでは折角の骨折も水の泡ではないかと詰られた當局の辯明に曰く「大正藝妓であらうが、明治藝妓であらうが藝妓の志望と資格さへあれば、認可するのは當然で寶姐の方は全く別問題だ」と▲之を聞いた例の魔屈側では、今迄鳴を沈めて形勢如何にと待ちあぐんで居た矢先此吉報を得て、地獄で佛と額を叩いて喜んだ幽靈主人公の面々、寄り／＼協議を重ねた結果遂に一つの妙案を捻り出した▲それは今居る女を皆藝妓にして了ひ夫でも撲滅する杯と謂ふならば、赤坂、新橋、烏森等と平等にやつて貰らはふ、又檢擧も營業取締規則も同じだから安心なもだと敦圉き出し、扨ては抱女に藝を仕込む事になつたのださうだ▲若しさうなつた曉にはお手近な吉原が大打擊を蒙るのは極り切つた話なので今迄一人天下に腹鼓を打つて居た遊廓の連中も事態輕ろ容易ならずとあつて、八方喰止策に着くなつて奔走し見たが何うも形勢が甚だ不穩なので、益々驚き相變らず、諸所方々に駈摺り廻つて居る▲一方藝妓の本場所でも事生活問題に關するので、之も同じく種々陰謀を企てゝ見たが、結局藝妓取締の規則を改正するより他に道がないので下唇を嚙み締め、諦め兼ねて居るさうだ。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

鰌の跳ね廻り

□□ 金と身體は別物だと執圓く女
流石の樓主も散々に籠落さる □□

救世軍大尉 婦人救濟係 伊藤富士雄

或日の午後、年の頃廿七八位な色の蒼白い、言語動作から察する處、迚も堅くはなれさうも無い婀娜な女が救濟係の室へ遣つて來た。種々事情を訊いて見ると、海千山千の强か者許りを撰りに撰つて集めるとかいふ評判のある吉原町二丁目××樓で六年の年期を勤め上げた。處が何うした事か又六年勤めろと攻められるのに驚いて逃げて來たのだといふ。而して之から眞面目になつて一生懸命に働くんだと執圓いので、

「全くだ。鰌や鯰じやないのだから何時迄泥中の中を游ぎ廻はれやしない。結局は何れ明るみへ出る身體なのだから、早く堅くなるが良い。と云つた處で、箱詰にされてお寺へ持つて行かれる時、初めて堅くなるんじや駄目だが、まア若い内に良い加減に足を洗つたが良い」

と謂ひ聞かせて居る内に袂から煙草を取出し火を付けて喫ふとするので

「シッ!!此處は禁煙室だ」と吐鳴つても更に諾かぬ様子に、

「此室を電車の中と思て我慢をしろ」

と漸く止めさせた位の阿婆擦に出會したのは、自分も從來救濟した六百人近くの娼妓の中で初めてあつた。兎も角例の通り日本堤署に同行して、樓主と種々押問答の末型の如く名簿削除となつて立派に自廢を遂げた。處が其樓主なる者實に廓内一流の才子を以つて自任する區會議員の肩書上、如何に阿婆擦女とは謂へ高が娼妓杯から馬鹿扱ひにされて乃公の顏が立たゝぬとあつて躍起となり、何とか苦める方法も哉と、警察から二人で引上げる後から尾いて來て、到頭番の室迄這入つて來た。自分は何うなる事かと其儘傍觀して居ると、女と樓主の間に劇論が初まる。

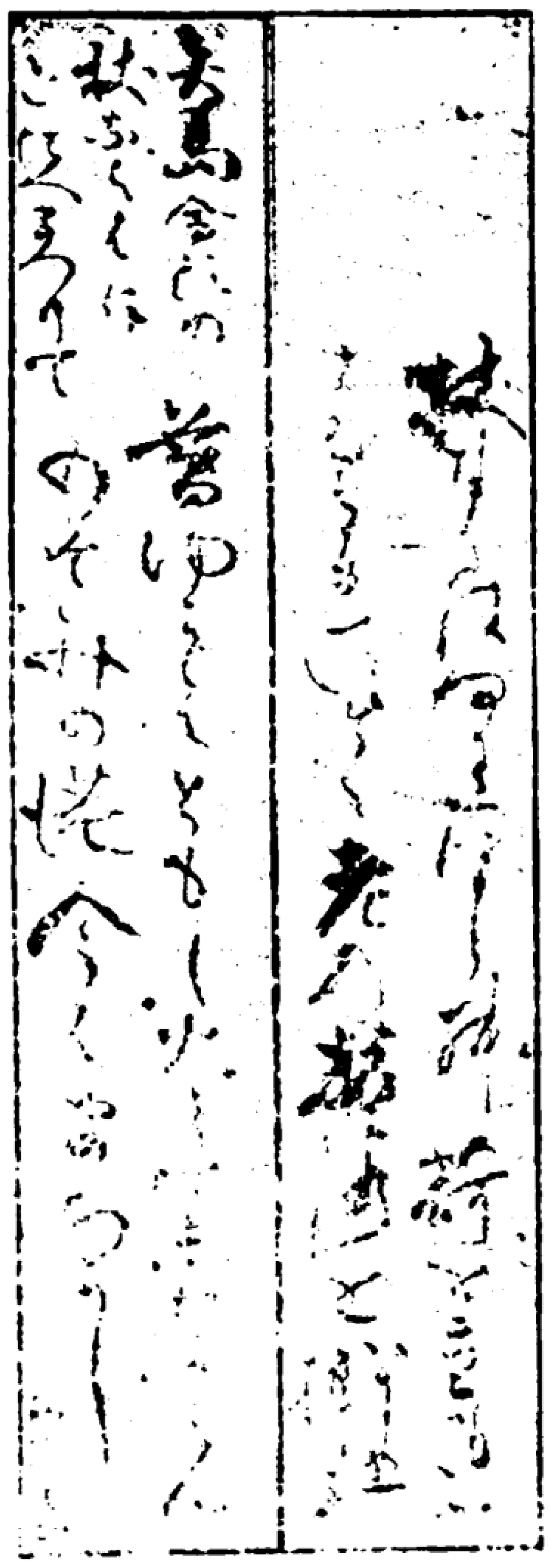
「金は廻り物ですが、身體は然うは行きはしませんわヨ。妾だつて熟く考へて御覽なさいナ、稼がぬ譯ではなし。

隨分從來儲けさせたのだから少しは荒療治でもしたくなつたのサ」

と樓主左右に飜弄され前後に籠絡されて放々の態、見るに見兼れた自分は

「何うもさう紛紛しても仕方がない。其麼に話があるなら兎も角も室外で」

と抗議を申込むと、兩人は夫れから銀座の□□亭に上つて、樓主は何うかして再び連れ返らうと煽動たり賺したりする爲め二三圓の散財を惜氣もなく奮つて見たが、女は頑として承知しない許りか、散々に管を卷いて籠絡したので泣き相になつて歸つて了つたとは女が舞戻つて意猛らかに喋舌る處であつた。斯うして女は樓主杯を眼中に置かない様子で、救濟係の自分にさへ時に變な事を謂つて掛る位の女だから、丁度鰌が泥中の中を巧にニヨロ附くやうに、斯うして我身の行末をも顧みずに泥水の中を跳廻つて居た者であつた。


去月遊説の途中にて
矢島女史と林女史

茶ばなし

先達も些つと書いた事だが、例の落語家が遊廓取締規則改正の泡沫を受け、之では落語の種切れになりさうだと溢し抜いて居る矢先▲此間其筋から遊廓落語に就て嚴達があつた▲何でも「遊廓へ行つて娼妓に優待話しは一切相成らん」との事ださうだが、落語家の云草が頗る振つて居る▲「折角の御注意ですが、娼妓に優待た話は一切落語になりません」とは▲全く氣が利き過ぎて間が抜けてると夥しい。

天鼓の響

當局者の英斷を望む

長野 愛泉生

近來頻々として官憲は出版物の取締を嚴重にしてゐる。ことに繪葉書などに至りては尚更甚敷のがあります。前者の書籍などの出版物が安寧の秩序を害するといふのですから。吾人敢て容喙する處ではありませぬけれども、後者の繪葉書などに致りては吾人風俗壊亂させらるゝことを笑はずには居られませぬ。これは一例でありますが海水浴着をつけたる半裸體婦人、若くば腰部に布片をまとひたる婦人、是等は勿論乳部にも布片を蓋へて居ります。此他是等に類似のもの多數あると雖も、今それを一々列擧するの遑がありませぬ。斯くて吾人青年が情慾を制する能はざるものとせらるゝのでせうか。吾人青年が右の如き繪畫を目擊したりとて何等挑發的印象を與へらるゝとは信じられませぬ。當局者は青年の性慾に對する觀念がそれ程迄に氣鋒して居るとお考なさるとすれば杞憂に過ぎぬと申さればなりませぬ。尚性慾問題については藤浪(鑑)醫學博士が毎號懇切なる解說を與へて居られるし、また裸體畫については高島米峯先生が前號に於て女を無視する風紀警察と題し種々述べられて居るこの二項を參照していたゞけば私しの申上むとする處は盡きて居ります。

翻て當局者は公娼といふ看板を大々的に陳列なされて繪畫の別段意にするに足らざるものをさへ發賣してはならぬ。これが風俗壊亂といふ名目のもとに、大海に一滴の毒汁を注ぎこんだといふ、御筆法には唯々驚くの外ありませぬ。然し吾人と雖も巷間發賣せられつゝある如何はしき小說や、是等繪葉書などの絶版を希望して居ることは當局者と同一意見であります。

私は此頃同僚が語りつゝある驚くべき事實を悲しむものであります。長野縣の一都市に於ける遊廓に客となるものは實に青年にあらずして妻子のあるものであるといふ一事であります。それが七分までといふに至りては、たれか慨然とせざる。當局者よ、若き青年が情慾の奴隷たらむがために設置の必要とせらるゝ公娼養成所たる遊廓が、家庭を作せる中老(私は妻子あるが故に斯く名づけたい)が出入するとせば如何でせうか。現代の家庭そのものゝ缺陷と、婦人に尊重すべき家庭觀念の皆無にも起因するでせうが。公娼そのものゝ制度は無意識ではありますまいか。毎號諸博士によりて高調せらるゝ公娼そのものゝ撤廢なるものと、當局者が力說するようなものでない事は、同僚者の遊廓に沈溺するものに、花柳病に犯されぬものゝないことによりて立證せらるゝのです。これなら當局者は何辭柄をもおけむとするや。

當局者は或種の出版物が風俗を壊亂する者と認め、之れを嚴罰して置き乍ら何が故に實物の壊亂原素を傍觀するか。

何故之を忘却する乎

横濱 梅翁

余はあらん限りの力と方法を講じ、各方面に向って世の廓清を希望し、終に我國をして天國化せさする者である。諸君願くば余が論旨の餘りに平凡なるを以てこれを顧みざるなく、余が腦裏の餘りに舊式なるを以てこれを捨る事莫くば幸である。

我國は日清日露の兩戰役によって一躍して社界一等國の列に入った。けれども正義人道の方面にては反對に一番劣等國にあらざるなき乎。淫賣の公許、離婚の多き、虚言の公行、不慈不孝は公然として父母を罵り兄弟牆に鬩き、親族互に忘れ、夫婦は仇視し、世の惡德と稱する者一として行はれざるやうな狀態がある遺憾だ。此事の世人の耳目に入らざるは。世人か其然るに慣れて氣付ず又世間態を憚かりて暗らすみの恥を明かるみに持ち出すと云ふを恥ぢて忍んで居るのみであらふ。一日も安寧の日ある一家はないではないか。同廓清號が淫賣公許の急を救ふ可く呶々しつゝあれども、我國當今の不倫一般を廓清するにあらずんば、恐らくは、國勢終に劣等たるのみならず、我國は滅亡の淵に沈むなきを得んか。

一體我國の現今は餘りに急激の文明に呪はれて、我國古來の美風を失ひ、未だ文明諸國の眞想を受け入るゝの時機には至らない、危險時代とも云ふ可き時代で

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ある。けれども維新後五十年を經過してあれば、最早本氣付く可き齡即ち半世紀にもなつたのであるが種々妨害の爲めに未だ其の迷夢が醒めぬのである。我國の昔、文明國風俗維持には共に社界制裁と云ふ者が必要で、之れが間接直接社界の風紀を維持するの一大機關である。最早宗教とか道德とかと云ふやかましき議論よりも、此の社界制裁が世の風紀を支配する支配力が强盛である。所が其の大切なる社界制裁力がなくなつて終つたから、我國今日の不倫不德救ふ可からざるに陷たのである。余は固より井底の蛙であるから外國へ行つて見たのではない。又雜誌や新聞紙で研究したのでもない。世の知明の人の話や二三の西洋人などの話を聞くと在外西洋文明國には社界制裁が嚴密に行れて居るといふ。淫賣婦等に接した者は社界の主腦者となる可き位置を得る事が出來ぬとか。家庭に於ても相當の倫常を重ぜねば相當な人と交際が出來ぬとか。尤も虛言を敬む習慣で若し人に虛言家との名容を毀損せらるゝ時は決鬪までもすると云ふ。又理に於て判定が出來ぬけれども、私刑と云ふ者までがあつて、社界制裁を助けて居ると云ふ事である。私刑と云ふ者までが社界制裁を助ける程でなければ、世の風紀を救ふ可き力がないと云ふ事は最早否定す可からざる極り文句だ。

我國の今昔の如きも、社界制裁が嚴實であつた事は余が喋々を待つまでゝもない。昔の金銀貸借證の如きを見ても分る筈である。若し公衆の前でお前さんは私がかした金を返さぬなどゝと云はれゝば、之れが借用人の致命症であつたのであらふ。又武士の體面を汚す者は死刑に至らずにも詰腹を切らせたのであつた、之れが今の西洋の死刑であらふ。所が今日の我國の有り樣は如何である乎。公衆の前で俺の錢が其邊だなさゝ罵る。昨夜餘り飲んで頭が痛い藝者家がネと云ふとでもなりでもれいやうな反辭しをする、それが粹な人と云す一の人格即ち誇りである。(此所案を緊ち齒を切つて讀む可し)金錢の貸借など初から虛言を以て堅めて置く、又甲會社で遣ひ込した者は乙會社で使ふ。教員の如き品行唯一の役目も、或る縣で人の婦を盜んで北海道で教員して居り、七十五日過ぎるとけろりと歸て來て又教員をする。之が此のまゝ駸々として止まるを知らず　又之を止むるに努力を貸す者がないならば、我國中誰彼を問はず唯の一人も其の關係を蒙らぬ者がなからふ。實に寒心に堪へぬ事である。我國も文明と云ふ者が入り來らぬ前ならば小虛言など苦にもなるまいけれども知識發達の今日此の虛言云ふ者の間接の禍害はどれ程世を毒するか知れない。盜賊とか博奕とかの如く、罪科の犯罪でない丈それ丈浸潤として人心を腐蝕して終に亡びに至らしむるであらふ。ましてより以上の者をやである。

社會の清涼劑

麻布青年會理事　曾根正巖

夫れ堅心は人格の基礎也。而して其堅心より生れ出づる廓清的精神は、社界國家に對する一の貢獻事業確立の礎にして、我國民の爲す可き進善の道の第一步たらずんばある可らず。此精神より生れたる我が麻布青年會は此意味に於て少くとも現紀問題に懸念せざる青年會の設立趣意とは其間多少の懸隔なき能はざる也。即ち我麻布青年會は大正二年十月　今上陛下天長の佳節を擧げられたる砌に創立せられ、已に五ヶ星霜を經たる今日なるに、現在の會員總數は僅に二百名に不過すと遺憾至極なりと謂ふ可し。雖然會員の數を計つて會の消長を論ずるを歇めよ。何となれば假令頭數のみ多くして其爭す處少きは却つて少數にて相應の成績を擧ぐるより劣れば也。

抑も本會創立の當時顧問たる貴族院議員江原素六翁は、其發會式の演說に曰く「現代青年の傳統的精神は智體德の三育相俟つ處の圓滿なる精神に其着眼點を置かざる可からず」と說き、同じく日本禁酒同盟會長安藤太郎翁は「諸君は先づ社會壞風の根本問題たる飲酒に就き之を一日も忽せにせず、能く禁酒の保證の心掛が必要也。而して尚ほ一般の悲惨事來に及んで青年の社會國家に盡す可き第一步なりと謂はざる可からず」と熱辯を振ふて列席の各位をして感奮せしめたり。爾來夫等の名教訓を汲み、會員各自は互に耕作錯身克く其趣旨の徹底に努めつゝあり。固より社會風教問題を一擧にして矯正する能はずと雖も、現在の意氣込にて突進せば遠からず目的地の一端に到達するを得るは瞭然たる者ありと信ず。於茲乎吾人は會員の激增を募らず賴みとせず、意氣相求むる同志の結束を是とするが故に、終始一貫主義の下に集ひ來る青年を歡迎す。決して酒池肉林に諸會の結末を告ぐるを常例とする或種の青年團とは設立の根本より既に相反し互に東す。從つて現在の浮薄輕兆なる思想を持つ青年輩は、我會を觀て少からず煙たがるも亦故なきに非ざる也。其煙たがる青年の多かれば多數なる夫れ丈我會は社會の清冷劑たると謂ふを恥らず。然り我會は飽く迄純潔の旗幟を飜し以つて社會の惡氣を一掃せんとす。其意氣や實に深高にして且つ遠大なるを誓ふ。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

廓淸會第六回總會記

六月十六日午後二時、東京神田青年會舘に於て、左の順序により廓淸會總會を開く。

▲第一部　報告會（二時）

一、大正五年度事業報告。二、會計報告。三、支部報告（各支部代表者）。

▲第二部　協議會（三時）

議　題

一、飛田遊廓設置に對する善後策如何。
二、待合の風紀廓淸策如何。
三、埼玉縣の廢娼を斷絕せしむる運動如何。
四、役員改選。

▲第三部　懇談會（五時）

話　題

一、本會機關誌改良意見。

▲第四部　演說會（七時）

辯士

□女性の男性化……高島米峰氏
□所感……德江亥之助氏
□新文明の基礎……內ケ崎作三郎氏
□飲酒と犯罪……片山國嘉氏
□子供に對する義務……安部磯雄氏

定刻會長島田三郎氏議長席に就き開會を宣す。先づ松宮理事は前年度に於ける事業及本會の現況を報告し次で山本理事は別項の會計報告ありたる後、各支部代表者の支部報告があつて各地よりの祝電を朗讀し、第二部の協議會に入り、一飛田遊廓設置に對する善後策に付ては、審議討究の結果當然として運動を繼續す、即ち一步進むで、新らしい運動方法を開始することに決議し、次に待合の風紀廓淸に就て安部副會長の說明する處あり、埼玉縣の廢娼運動に關しては、群馬支部長德江亥之助氏種々の方面より詳說して其撤廢を期するの心要と熱辯を振ふ。右三件は何れも新役員へ一任することに決議す。それより役員の改選に移り會長、副會長及理事の留任を乞ひ、會長以下之を諾す、評議員の選任に付ては正副會長幷び理事に一任することに決し、終りて懇親會を開き談笑の裡に晩餐を共にした。午後七時。

▲男女問題大演說會

を開く、伊藤秀吉氏開會の辭を述べ、高島米峰氏登壇得意なる雄辯に巧なる諧謔を交ぜて聽衆の笑聲と拍手の裡に別項の演說をせられ、聽衆に多大の感興を與へて降壇次いで群馬支部長德江亥之助氏は選擧の事から男女貞潔問題に入り前橋の精密なる犯罪者の統計をあげ、犯罪の原因が酒色が最も多數であるを說き不徹底なる日本人の道德的觀念を呼醒ます處があつて內ケ崎作三郎氏と代る。氏は拍手急霰の裡に登壇新文明の基礎と云ふ演題の下に、宗教や新らしい文明の由つて來る所を說いて熱辯を振ふ、今度選ばれた外交調査會には英國なり佛國なり一國の知識は有つて居るが世界的の事を一人で兼ねて居る者はないが、そこへ行くと大隈侯は其人である。と說き出せば學生の群がる彌次と拍手が湧いた。第四席醫學博士は片山國嘉氏は飲酒と犯罪と云ふ題の下に氏の一流の得意な法醫學から例證を引用して飲酒から起る犯罪に付て縷々說明する所あつて降壇、最後に安部磯雄氏簡單なる挨拶を述べて聽衆に多大の感動を與へ、十時閉會聽衆八百余名。

大正五年度收支計算報告

自五年四月至六年三月

▲收入之部

贊助員收入	六四六、七五〇
正會員收入	一、五〇四、八二五
雜誌及トラクト收入	九三、五四五
廣告收入	一三一、五〇〇
入場料收入	一三五、八〇〇
寄附金收入	七五五、五八〇
現金（前年度より越）	一五、九六〇
計	三、二八三、九六〇

▲支出之部

雜誌費	一、六三二、九一〇
編輯費	一〇四、二四〇
印刷製本費	一、三五八、六八〇
發送費	一六九、七九〇
雜費	、二〇〇
事務費	一、一一七、九四〇
通信費	四五、四九〇
交通費	五一、八一〇
文具及消耗品費	一八、三〇〇
印刷廣告費	一三一、一二〇
旅費	三七、六五〇
備品費	二、四五〇
圖書費	三、七〇〇
振替口座使用料	一五五、四二〇
事務所費	五一、八五〇
俸給及諸給	六一〇、九五〇
雜費	九、二〇〇
集會費	二五三、七八〇
會場費	一四三、三八〇
通信及運搬費	一、一〇〇
交通及旅費	六、九九〇
文具消耗品費	一一、七六〇
廣告及印刷費	四三、五五〇
七士謝禮	二一、〇〇〇
支部集會補助費	一〇、〇〇〇
雜費	一六、〇〇〇
出版費	二七五、九九〇
トラクト出版費	一二一、〇〇〇
トラクト發送費	一五四、九九〇
現金	三、三四〇
計	三、二八三、九六〇

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

熱血紅涙

■久野彥三君　（本鄉）私は微々たる一職工でありますが、昨年本鄉座や、神田の靑年會館等諸處の大演說會並に盛なる御會の大運動に感動と刺戟を與へられまして早速入會致しました者で御座います。由來吾等勞働階級が社會より輕蔑と侮辱の念を以て迎えられつゝあるの原因は吾人思想の向上せざるが爲であるけれ共又一に道德觀念の缺陷に基因して居るからである。

■藤本倉吉君　（靑森）人間は到る處に於て知らずしらずの間に種々な罪惡を作りつゝある。之が罪亡ぼしは我々が何事でも良いから社會の健全なる發達に盡さなくてはならぬ、余は廓淸に奮鬪する考である。

■中村勝次君　（濱松）先日廓淸大演說會開催の節は、安部、內ケ崎兩先生の御來演を忝し、尙其の上雜誌浮由御寄贈被下難有感謝仕り候、當日の來會者に之を分與仕り候、憶に聽衆に讀者に一種の敎訓と大なる刺戟とを與へたることゝ確く信じ申し候、まて我等は尙進むで當市に廓淸會支部を設立致し大に社會の爲、奮鬪する覺悟に御座候。

編輯の後

□本會には、六月の總會の開催を機として目醒い活動を爲すべく、會員諸君に入會勸誘書を送りました處、多數入會申込を御照會被下まして有難く感謝致します。

尙一層熱烈なる御同情と御後援とを以て同士の糾合に努め、會員が相互に協力、團結して、社會の汚物を取除き惡軍と戰ひ、社會の廓淸に努力して、本會も局面展開をせねばならぬ時機に逢着してゐます。どうか諸君は會員と云ふ觀念と自己の責任とを以て今少し突貫的に此の運動に參加せられて實戰の焰を燃やしたいと思ひます。

□藝者貧する鈍する苦勞するで大事な操をお客に提供せなければならないのは誤られたる彼等の生の努力の結果である。近時肉を漁る半獸主義な男——而も堂々たる紳士——が白晝待合で藝者の肉に野獸の如く嚙り付いて旺んに風紀を紊亂して目も當てられぬ妄狀、近頃の話だが一警官が或る待合へ臨檢に行つた處、直ちに紳士と藝者は共に蒲團の中へ潜ぐり込むで、コレだコレだと云つて、自分の名刺を振り廻したと云ふ喜劇がある。賣淫藝者の夜行の甚しいことや待合の陋醜は、藝者ばかり苛めるのは酷だ、病は內に在りて、如斯陋醜極まる妄狀は男子に根本的治療を加へなければ駄目だ。聽く所に據れば待合の風紀の廓淸に對し、警視廳では大々的活動を開始して鐵腕を振ふと云ふ。乞ふ願くば龍頭蛇尾に終らざらんことを。

□近來の男は妻帶するに無傷な處女を要求することを烈しくなつた。之れ明に男自身は自ら處女の貞操を蹂躙することの甚しい事に裏書きするものにあらずして何ぞやである。何れの國も男は勝手氣隨なもので、蓋し弱き者は女也と謂はれて自覺發憤し男に對抗して、或る重い使命を帶びて出現されたのは所謂新しい女である。彼等は今、其執るべき道を誤つて世人に末路を吊されつゝ居る、從來男子から强烈に壓迫された其反動としての結果で、所謂社會の犧牲者である。

□日本の御役人は、善く云ふと親切で氣の少さいことは甚しい。毛色の變つた新らしい事を云ふと直ぐ言論取締りで一寸來いで行られる。砂な繪畫でも描くと風俗壞亂で御目玉を頂戴すると云つた工合で、兎角く我國の文學や美術は御役人から祟られるが、之れに反して米國邊りでは民國から火の手が揚がる。此頃流通し出した廿五仙の銀貨は表面に描いた自由の女神の圖樣が如何にも排發的だと云ふので、市俄高の婦人俱樂部は流通中止の抗議を提出したさうだが、米國では御役人の方は粹で民間の方が野暮だと見える。

□我國では一夫一婦と云ふことは非常に喧しく云はれてる結果、例令妻が死んでも、後妻を迎えると云ふことは、人格的に結合した夫婦關係に戾るまで謂はれて居るが、人口問題で苦心して居る佛蘭西では戰前から一夫二婦論杯議會に持ち出された事があるが、開戰後此の問題は益々實際的に研究されて近頃では一夫五婦論とへ盛んに唱道さるゝに至つたさうだ。此の分では折角今迄苦心して築き上げた一夫一婦主義が瓦壞されて了ふ。我等の責任は愈々重大である。

□會費整理の爲、未納者の御方に集金郵便で督促することになりました、御面倒でしやうが僅かな會費でありますから御支拂の事を願ひます。（角雅堂）

大正六年七月一日納本　（每月一回一日發行）
大正六年七月一日發行　一部金七錢郵稅共

編輯兼發行人　神田區今川小路一丁目三番地　伊藤秀吉
印刷人　小石川大塚窪町一番地　久保民生
印刷所　京橋區弓町十三番地　千代田印刷株式會社
發行所　芝區三田四國町二番地　廓淸會本部
電話芝五八五五番
振替東京二七〇七二番

●廣告主に御用の際は必ず雜誌「廓清」による旨を申添を乞ふ●

〔新刊〕

一條忠衛著

男女道德論

總布製四六版
紙數五百頁
定價一圓卅五錢
送料八錢

人生の歷史は男女の歷史である。一切事件は男女を背景としてゐる。父母といひ夫婦といひ、兄妹といふ。皆男女の關係ならざるはない。然るに男女の根本研究、殊にその倫理的關係、——殊に現代の新生活を立脚地として新道德上より男女問題を論究したるもの甚だ少きは寧ろ吾人の怪訝に堪えぬ所である一條忠衛君の本著はこの興味ある問題を捕へて縱橫自由に之を分析解剖し、高遠なる理想に照して之を批判す。或は卑近なる實例を採り、或は社會の暗黑面を抉發し現代人心を警醒し指導せんとするの精神到る處に溢るゝの觀がある。現代青年男女の良參考書たるのみならず敎育家、倫理學者、また父兄たるものも一讀して利益を受くる所多大なるべきを疑はない。一條君は篤學の士である。一意潛念して倫理學を研究すること年あり、本書は多年の研究の第一發表である。本書に由りて同君を江湖に紹介するは吾人の光榮とする所である。

大正六年六月

内ケ崎作三郎先生評

◎本書取次！

此の廣告を見て直接に本會へ御申込になれば定價の金額だけにて別に送料を要せず御取次します。

廓清會本部

東京神田區表
神保町七番地

大同館發行

振替貯金口座
東京八七貳番

●廣告主へ御用の際は必ず雑誌『廓清』による旨御申添を乞ふ●

中元御贈答品賣出し

七月二日より

東京

三越呉服店

（明治四十四年八月一日第三種郵便物認可
大正六年七月一日納本）

（毎月一回一日發行）

大賣捌所
東京堂、東海堂、上田屋
北隆館、良明堂

一部定價金七錢